The Article 9 Society Hiroshima
第九条の会ヒロシマ
会報 99 号
2018年9月

名誉代表　岡本三夫　　世話人代表　藤井純子
連絡先　〒734-0015　広島市南区宇品御幸1-9-26-413
TEL：070-5052-6580　　FAX：082-283-7789（佐々木孝）
E-mail：fujii@jca.apc.org（藤井）URL：http://9-hiroshima.org/
郵便振替 01390-5-53097 第九条の会ヒロシマ　年会費2,000円

改憲発議を止める！　憲法を生かそう！

憲法のつどい 2018 のお知らせ

11/3（土）14：00～16：30

広島弁護士会館 3 階ホール

資料代：500 円（学生・障がい者無料）

「日本国憲法と個人主義」

講師：亀石倫子さん

弁護士。GPS 裁判において被告の主任弁護士をつとめた。2017 年 3 月に勝ち取った最高裁の「令状なしの GPS 操作は違法」は、歴史に残る判決といわれている。

特別報告：
恩地いづみさん
（第二次別姓訴訟＠広島原告）

「不安なく違っていられる社会へ」
ー別姓訴訟の原告となって

主催：戦争させない･9 条壊すな！
ヒロシマ総がかり行動実行委員会

11.3 のチラシを同封しています。
チラシが必要な方はご連絡ください。

8.6 新聞意見広告に 3000 万人署名を載せて

今年も皆さまのお陰で、ストップ！改憲 8.6 新聞意見広告を掲載することができました。2 月の意見広告と合わせると、意見広告を見て 1000 人以上の人々が署名を送ってくださり 3000 筆を越えル署名が集まりました。署名用紙を載せたことで、これまで 3000 万人署名を知らなかった人々とつながることができたのです。これも皆さまのご協力・ご支援のお陰だと心より感謝いたします。

力を合わせて改憲発議を止めよう！

この秋、安倍首相は総裁選 3 選を果たし、改憲発議を目論んでいます。安倍 9 条改憲の危険性を伝える 3000 万人署名集めは、発議をさせない大きな力になります。

民意を無視して辺野古新基地建設を急ぐ政府に対し、命を削り、闘い抜かれた翁長知事の強い思いは岩国・ヒロシマも同じです。米軍基地の拡張、自衛隊との一体化に反対する運動、原発に反対する運動、核兵器禁止条約を進める運動、人権を獲得する運動など、力を合わせなければ改憲発議は止めることはできません。

一人ひとりが大切にされる社会の実現を

3000 万人署名には、安倍 9 条改憲 NO ！と、もう一つ「憲法を生かす」という大きな目標があります。一人ひとりを大切にすること、それが憲法の個人主義です。憲法を生かし人権を尊重することは、私たち主権者の責任です。行動している人の声に耳を傾け、憲法の個人主義に学び改憲を止める力にしていきましょう。

11.3 憲法のつどいにどうぞご参加ください。（藤井純子）

会報99号　　もくじ

1　113憲法のつどいお知らせ
2　改憲発議をとめる　8.6新聞意見広告の成果と宿題 ……　藤井純子
4　沖縄辺野古埋め立て土砂の搬入･搬出を阻止しよう ……　松本宣崇
7　辺野古ゲート前座り込み集中行動報告 ……　渡田正弘
8　道徳教材「美しい空の勇者」もう一つの指導案 ……　山川滋
10　安保論理を超えて平和体制へ　韓半島の情勢をどう見るべきか　金鐘哲
14　8.6新聞意見広告2018の報告　8.6新聞意見広告の反響
17　賛同してくださった皆さんからのメッセージ
20　戦後ヒロシマの記録と記憶【上下巻】を読んで ……　岡本珠代
22　活動報告
24　お知らせ。後記　　署名のお願い

平和主義を貫くために改憲発議をとめる！

藤井純子（第九条の会ヒロシマ世話人）

安倍改憲の発議を止められるか

政治を私物化し、ウソをつき、戦争法や共謀罪法など戦争への道を突き進む安倍首相を支持する人が多いのは何故？　税金を使い、財界を引き連れて各国をめぐり「スタンプラリー外交」よろしく海外に出かける首相。拉致問題は米国トランプ任せ、ワシントンポストの報道によると６月の日米首脳会談で、北朝鮮の非核化が具体化するまで、米韓合同軍事演習の中止や朝鮮戦争の終結宣言を思いとどまるようトランプ米大統領に助言したという。つまり北東アジアの非核にも「北は信用できない」「中国の軍事力は強大に…」と後ろ向き。これが外交の安倍といえるか？　はたまたアベノミクスは失敗、不祥事や深刻な失言が続いても安倍政権は倒れない。日本会議も「アベ政権でしか改憲はできない」と安倍政権を支え続ける。国会議員も、自分の保身のために「選挙に強い」安倍首相に逆らわない。自民党内で安倍降ろしをしない。通常国会で「働き方改革」「カジノ法」などの悪法は数に任せ、公明の後押しで通した。それでも３割の人が支持し、街頭行動で安倍政権退陣を訴えても「アベさんしかいないでしょ」と返す人が多い。考えることを捨てないでと言いたくなる。

こうした徒労感の中で、それでも何をしたらいいのか模索しなければならない。安倍首相のことだ。昨年の衆院選を思えば、両院三分の２を持っている今、改憲発議を早期に出すことを覚悟しなければ。通常国会で改憲手続法＝国民投票法の改定は論議さえできなかった。来年は地方統一選、天皇の代替わりなど日程がぎっしりで、改憲は参院選後になるだろうなどとのん気にしている場合ではない。もう後がないのだから。

しかし、もし来年の参院選で野党が３分の一を越えれば安倍政権は改憲できなくなるはずだ。確かに広島では共闘は本当に難しい。それでも野党共闘を実現すべく市民で働きかけたい。そして 3000 万人署名を集める中で、安倍９条改憲の危険性を一人でも多くの人に伝えよう。あなたの生活が変わるのよ、考えてみてねと一人ひとりの心に届くように。全国の仲間と共に、私たちも「改憲発議をしても無駄だよ」という勢いをつくるよう、共に取り組みたい。公平、正直が個人攻撃と思われる安倍首相を信頼している人はいるのか？　国会前の安倍退陣の声は確実に広がっている。だからもう一押し。

新聞意見広告の成果と宿題

第九条の会ヒロシマは、２月と 8.6、２回の 3000 万人署名新聞意見広告を掲載した。安倍９条改憲の危険性を伝え、憲法を生かすために 3000 万人署名を成功させたいと思い、私たちに何ができるかを考えた時、意見広告だと思ったからだ。

意見広告の反響は思ったより大きかった。（詳細は P14~19）２回の意見広告で 1000 人以上の人々が、署名を送ってくださり、3000 筆を越える署名が集まった。これまで署名を届けることが出来なかった方々とつながることが出来たこと、その方々が、意見広告を見ただけで「第九条の会ヒロシマ」を信用し、自分の名前、住所を書いて安倍 9 条改憲 NO! の意思表明としての署名を送ってくださったことは大変嬉しい。まさに憲法の個人の権利、表現の自由の行使だから。そして今でもそんな方々からの賛同カンパが寄せられていることも有難い。中には署名やカンパを送るのは勇気がいったという声もいる。まだ出会えていないが思いを同じくする人は、たくさんいらっしゃると確信した。これは大きな希望だ。それもひとえに賛同してくださった皆さんのお陰だと心より感謝したい。

また、署名と同時に電話やメール、手紙もたくさん頂いた。「意見広告を見て『オッ』と思わず声が出ました。日頃から安倍政府の言うことなすことに腹立たしく思いながら何もできていない自分がいます。せめてこれぐらいなら…」こんな方が多いのではないかと思う。どうしたらいいんだろうと思っていたが、この署名ならできると喜んでくださったのだ。2 月の中国新聞においてもこんな切実な思いが手紙に書かれていた。ひらがなの多い子どもさんかなと思える手紙もあった。親子、或いは祖父･祖母との会話が聞こえそうだ。

しかし中には、少なかったけれど私たちと違う意見もあった。「自衛隊は必要だ」「改憲は戦争のためではなく守るためだ」「ズドンとやられた時では遅い」という人もいた。国と国との争いと、現場での衝突に混乱したのだろう。また安倍政権はダメとしながら悩んでいる人もあった。「９条改憲ＮＯ、核兵器禁止と言うが、安全保障はどうするのだ。アメリカ主導、日本政府が盲従する軍事力均衡による安全保障に対抗する哲学が必要ではないか」という。文政権の努力による南北会談や米朝会談など結局は話し合いによる解決しかない現実をしっかり受け止め、日本政府も憲法に則りそんな努力が必要だ･･･　一応そんな返事を書いたが、私たちは、そうした「新 9 条論」ともいわれる人たちにしっかり答えているか、今一度考え、議論すべきことだと宿題をもらった。

広島県内各地総がかり行動の意見交換

広島でも、「安倍 9 条改憲 NO ！　憲法を活かそう」3000 万人署名を成功させるために「戦争させない･9 条壊すなヒロシマ総がかり行動実行委員会」ほか県内各地で大小 20 の総がかりの動きが進んでいる。それぞれが目標を掲げて学習会、街頭署名、戸別訪問などに取り組んでいる。8 月 25 日、県内の総がかり「意見交換会」を開き、報告や悩み、展望などを話し合った。もともと県内各地の九条の会が母体となっているところも多く、とりわけ三原は「九条の会・三原」の市民の人たちが呼びかけて地区労や部落解放同盟、共同センターなどこれまで考えられなかった協働作業を行い、講演会はもちろん、3 分の 2 世帯の戸別訪問を目指して活動をしているそうだ。この夏の大洪水土砂災害にも負けず、秋には立て直して再開するという。

県北や東北部では、車がなければ戸別訪問も難しいがそれでも取り組まれている。庄原市は「戦争法」に反対する行動が続いて保守の人たちも加わっているようだ。呉では、安倍９条改憲 NO ！だけでなく、呉教科書裁判に関わる人たちも一緒に運動を始め、日本会議派の市長を代え、「憲法を生かそう」というもう一つの目的にも総がかりで挑んでいる。

福山市、西部などでもこれまでの分裂のしこりを背負いつつ、市民がつなぎ役となってそれを取り払うために奮闘している。

女性組織もセクハラ問題や入試での女性排除、また「LGBT カップルは生産性がない」などという結局は女性を産む道具とする女性蔑視のなどを取り上げながら安倍政権の弊害、人権を保障する憲法を生かす運動としても取り組んでいるそうだ。

また、毎週元安橋付近で署名を集めている 4 ～ 5 人の女性たちがいる。チラシにマンガを描いて分かりやすく呼びかけている。(P22) 中には１人でも時間のあるときに街に出かけて行って 5000 筆以上を集めた女性がいる。「もし 9 条が変わると男も女も戦争に行かされることになる。あなたはそれでいいんですか？」と短くても自分の問題となるよう呼びかけていくそうだ。自衛隊でなくても、技術者、医師、看護師、運送業などなど「紛争地に行け」と言われたら行くしかない。今でも「断る」ことは難しいが、憲法に明記された人権としてその選択肢はまだ残されている。九条が変えられれば人権も制限されることは必至だ。

「安倍 9 条改憲」の危険性を通りがかりの人の心に届き、考えてもらう言葉を使う、これは大切なことだ。またこれは私たちが、8.6 新聞意見広告で「改憲その先に何が見えますか」と問いかけ、真剣に考えて頂こうと思ったこととつながる。一人ひとりの心に食い込んでいく地を這うような作業だがとても大切なことだと思う。街頭や戸別訪問など、地域別、課題別、それぞれの悩みや目標を共有することは有意義だった。それぞれが持ち帰り、今秋頑張っていくことを確認した。

ぬちかじり命の限りの抵抗

沖縄の翁長県知事が亡くなった。命を削り、辺野古新基地建設を止めようと必死で闘い抜かれたことに多くの人が感謝し、心を寄せ、台風の中、8 月 11 日の県民集会に 7 万人もの人々が集まりまったと聞く。翁長さんの息子さんが「辺野古の基地建設、止められたよ。と報告できるように頑張りたい」の言葉に続き、「知事の意思を受け継ぎ、実現するために全力を尽くそう」と皆さんが次々と発言されていた。

４年前、翁長さんが「イデオロギーよりもアイデンティティ」を掲げて県知事選に立ち上がった時、同じく命を削ってゲストスピーチした俳優の菅原文太さんは「政治の役割は 2 つあります。1 つは、国民を飢えさせないこと。もう 1 つは絶対に戦争しないこと。海も山も風も、国のものではない。そこに住んでいる人のものだ。」と発言し翁長さんと握手をしたことを思い出す。その二人はもういない･･･　岩国同様、沖縄の自己決定権を奪う官邸主導や自公連携、争点隠しに怒りが込みあげる。翁長さん、菅原さんに学び、私たちが広島で何ができるか考え行動をしていきたい。それが憲法に保障された主権者の義務であり権利でもあり、地方自治なのだ。

本土側から沖縄と連帯する運動を

それにすでに沖縄だけの問題ではなくなっている。「本土」から、瀬戸内の海から辺野古埋め立ての土砂を投入されるのだから。この土砂投入に反対する運動（4 ～ 6P）は既に力強く進んでいるのでその運動に参加する、辺野古現地に出かけてゲート前行動に参加する（P6 ～ 7）、地位協定の学習会や見直し運動など自分の問題として取り組むべきことはたくさんある。

また、今秋、東京 10 月、横田基地に海軍使用の CV22 オスプレイが配備される。訓練を続けても事故が減るどころか増えている欠陥機だ。日米安保条約の下の地位協定によって、また日米政府の運用によって仮に事故が起きても日本側は原因を検証できず、飛行を停止させることもできない。日米地位協定の改定は、米国追随が当たり前と考える政府も官僚も全くやる気はないが、中国新聞が、「全国知事会が、日米地位協定の抜本的な見直しを日本向政府に提言した。全知事が一致し、在日米軍に特権的な地位を与える協定を改めるよう求めたのは初めてのことだ。両政府は重く受け止めなければならない。」と社説（8.28）に書いた。地方紙の良心ではないか。基地のある 15 県の渉外知事会だけではない。全国知事会、しかも全知事一致である。地元の人々の声、地方自治体の提言、政府は憲法を守り、誠実に地方自治に向き合わねばならない時が来た。広島県も岩国基地の米軍機の訓練に悩まされている。爆音の防止に国の補助金をねだるのではなく、地位協定という根本の問題に広島県としても取り組むよう、要請し、行動していくつもりだ。

沖縄県知事選を迎えるにあたっての共同アピール

もう一つ、ご紹介したい運動が飛び込んできた。「私たちも辺野古新基地建設に反対しますー沖縄県知事選を迎えるにあたっての共同アピールｊ　へのご賛同のお願いというものだ。

沖縄で知事選が行われることになったが、沖縄にこれ以上基地を押し付けることは許されない。「本土」の私たちにも、辺野古新基地建設に反対する意思を表明し、行動する責任がある。そこでこの共同アピールを、できるだけ多くの人びとに、賛同してもらうために大急ぎで発表された。この共同アピールは、知事選の告示日より前に記者会見などで発表される予定だ。声明と FAX 用紙も同封した。ご賛同をお願いしたい。

【事務局】
戦争させない・９条壊すな！総がかり行動実行委員会
〒101－0064　東京都千代田区神田猿楽町 1－2－3
錦華堂ビル 401
【連絡先】電：03－5280－7157　　FAX：03－5280

これらの行動が、いつか非暴力の平和主義に行き着くことを信じて。ぬちかじり･･･

沖縄と本土の連帯で埋め立て土砂の搬入･搬出を阻止しよう！
土砂で辺野古に運ぶな！本土からの特定外来生物

松本宣崇（辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会事務局長）

（1） 翁長県知事の遺志を引き継ごう

広島 9 条の会から寄稿の依頼を受ける直前、8 月 8 日午後、テレビでは「翁長知事、意識が混濁」のテロップが流れ、その矢先「死去」が報じられた。67 歳という余りにも早い旅立ちだった。

本年 4 月には、すい臓に腫瘍が見つかり、そのための手術、すい臓がんであることが公表された。その後の定例記者会見でお見受けした姿には痛々しさを感じざるを得なかった。5 月 29 日には、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（以下、土砂全協）は翁長県知事との面談を申入れていたが、残念ながら叶わず、その機会は永遠に失われてしまった。

私ども土砂全協が防衛省と、西日本からの辺野古埋立て用土砂採取計画の撤回を求め交渉した翌 7 月 27 日、辺野古埋立承認「撤回」を表明し、その手続きに入った矢先の突然の訃報だった。「全責任は自分にある」と県政与党議員に決意を伝え、今秋の県知事選挙に挑み、辺野古移設阻止へさらに一歩踏み出そうと願っていたと思う。

ご冥福をお祈り申し上げるとともに、「辺野古に新基地をつくらせない」という政治信念を、ご遺志として引き継ぎ、これからも闘いを進めていくことを誓いたい。

（2） 7 月 25 日「首都圏集会」開催

7 月 25 日東京都内で、「命の海に基地はいらない」を合言葉に、「土砂を辺野古に運ぶな！本土からの特定外来生物も　8 月土砂ストップ！首都圏集会」を開催した。辺野古土砂全協が初めて主催する首都圏での集会であった。猛暑が続きしかも平日の夜にもかかわらず、180 名の会場は満席どころか、立ち見や床にベタ座り、最後は会場外にあふれ、参加者は 230 名余りに。しかも 3 時間に及ぶ各地からの報告に、会場は「一言も聞き漏らさない」と静かな熱気にあふれていた。

日米政府は、沖縄の基地負担を解消することなく、沖縄県民の度重なる基地反対の意思表明を無視して、辺野古に新しい大規模軍事基地建設を進めている。新基地建設は平和への人々の願いを踏みにじるものであり、絶対に許せない暴挙であることは、参加した市民の共通認識である。

今、ジュゴンが棲み多くの生き物が棲む貴重な大浦湾・辺野古の海への土砂投入工事を開始するという危機的状況を目前にして、

- 沖縄県と搬出予定県が協力して辺野古埋め立て用土砂を搬出させないこと、
- 採石による地元の環境破壊を許さないこと、
- 辺野古の海を埋め立てないこと

を当面の方針として活動を進めていきたいと訴えた。

もとより、辺野古の埋立て・新基地建設はひとり沖縄の問題ではない。私たちは、西日本からの辺野古埋め立て用土砂の大量採取が、採取地と辺野古の海、双方の環境破壊であること、辺野古埋立てはいやおうなく日本列島に住む全ての市民を戦争に駆り立てていくものであり、全ての市民が当事者である。そして「西日本各地からの大量の埋立て用土砂搬出、本土でのケーソンの建造抜きにして辺野古新基地はできない」ことを強く心に刻み、ともに活動を進めようと訴えた。

そして、気候・風土の異なる地域間の土砂の大量移動が、特定外来生物の混入・移動を伴うことは、沖縄固有の生態系と環境に壊滅的打撃を与え、ひいては沖縄県の農林業の破壊に繋がることは必至である。にもかかわらず政府自らが、生物多様性条約・外来生物法・閣議決定「生物多様性国家戦略」に違反する行為を平然と強行しているとの認識を共有できた。

そして、私たち土砂全協は、

- 「沖縄県土砂条例」の改正を求め、全ての搬出県に生息する特定外来生物の沖縄島への移入チェックを厳格化することにより、本土からの土砂搬入を阻止する機運をつくり高めていくこと
- 新たに開始した署名を進め、「西日本各地から辺野古埋立て用土砂を搬出させない」活動を広く強く進めること、
- そして沖縄県、土砂搬出予定県をはじめとして、本土の心ある市民が共同して、戦争に反対し辺野古新基地建設を止めさせるために共に行動すること

を呼びかけ集会参加の全ての市民の皆さんとともに確認した。

（3） 7 月 26 日、4 回目の防衛省交渉

沖縄県名護市辺野古の新基地建設をめぐり、沖縄防衛局は 6 月 12 日、埋め立て予定海域への土砂投入を 8 月 17 日に開始すると沖縄県に通知した。これに対し、翁長雄志沖縄県知事は 7 月 27 日、埋め立て承認を撤回する意思を表明した。沖縄防衛局が環境保全に配慮せずに工事を進めていることや、大浦湾の軟弱地盤などの問題が判明したことなどが撤回の理由

である。

沖縄防衛局は今年 8 月 17 日にも県内土砂投入工事の強行を予定していたが、図らずも翁長知事の埋立て承認撤回手続開始の表明、知事の急逝、そしてそのため早まることになった沖縄県知事選挙を懸念し、見送りになっている。

その矢先、土砂全協は 7 月 26 日防衛省と 4 回目の交渉を行なった。土砂全協は、辺野古埋め立て用土砂の採取場所とされる西日本各地の市民団体が連携し、12 府県 18 団体が加盟している。環瀬戸内海会議も加盟している。

交渉では、

・沖縄県外の土砂搬出場所や業者との契約の有無
・特定外来生物の防除策
・大浦湾の軟弱地盤などを最重要交渉課題として取り上げた。

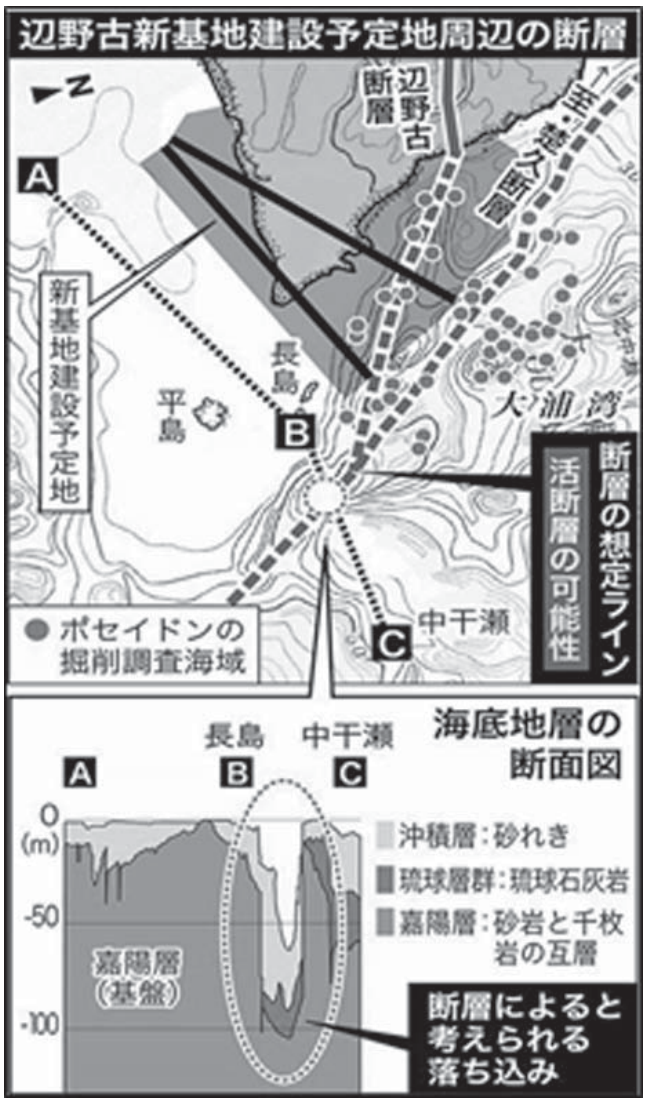
交渉で浮彫りになったのは、法制度や諸問題を無視し、何が何でも土砂を投入しようとする防衛省の強引な姿勢である。土砂搬出場所や採石業者との契約は、「現時点ではない」と、これまでの回答を繰り返すばかりであった。浮かびあがった問題点は以下の通り。

1　特定外来生物防止策はない

例えば特定外来生物の侵入防止策である。県外から搬入する土砂に特定外来生物が混入する可能性が非常に高い。アルゼンチンアリ・セアカゴケグモやオオキンケイギクなどだ。ところが防衛省は、「現時点において、特定外来生物の駆除方法で具体的に決まっているものはない」「いま契約している埋め立て工事は全て沖縄県内の土砂を用いる」と答え、外来生物侵入防止の実効策を一切示さない。かりにも生物多様性条約や生物多様性基本法に基づく閣議決定「生物多様性国家戦略」など無視している。本来、防衛省の事業であれ、当然、閣議決定を順守しなければならないが、防衛省にその姿勢は全く見られない。

2　本土側土砂採取計画は既にほころびが

沖縄県外の土砂搬出予定地では、辺野古埋め立て土砂の搬出を住民運動によって食い止めたところもある。熊本県天草・御所浦島の採石場では、採取し場内に残された土砂（岩ズリ）で掘削跡（穴）を埋め戻すことになった。土砂全協はこれらの事例をあげ、「当初の計画通りに埋め立て土砂を確保することはできなくなっている。8月17日開始の埋め立ては止めるべきだ」と追及した。しかし防衛省は、「現時点で、埋め立て承認願書の添付図書に記載されている採取場所と採取量に変更はない」を繰り返した。



3　大浦湾は軟弱地盤そして断層

大浦湾の海域では、沖縄防衛局の地質調査でもN値ゼロの軟弱地盤が確認された。N値ゼロは「豆腐かマヨネーズのような軟弱地盤」といわれる。これについても、防衛省は「継続中のボーリング調査の結果等を踏まえ、地盤の強度については総合的に判断する必要がある」の回答に終始した。

防衛省のひどい答弁に対し、参加者から「いい加減にしてほしい」「特定外来生物の侵入防止策を本気で講じようとしているのか」「生物多様性国家戦略を守る気があるのか」などの批判が相次いだ。

交渉には 50 人が参加。国会議員も、沖縄等米軍基地問題議員懇談会所属の議員など本人 8 人、秘書 8 人が同席した。交渉終了後、沖縄選出の糸数慶子参議院議員はこう述べた。

「防衛省との交渉は、ほんとうにフラストレーションがたまる。しかしそれでもやり続けなければならない。そのことを、みなさんと同じく私たち懇談会の議員も感じている。昨日の集会から今日の交渉にかけて、多くの仲間のみなさんの思いを確認できた。感謝したい。あきらめずに頑張ることを申し上げたい」

この報告を手にする皆様にもぜひ、ご理解ご支援をお願いする次第である。

（4）新たな「土砂採取計画撤回署名」にご協力を！

辺野古土砂全協は 5 月 26 日、沖縄市で開催した第 5 回総会で、2015 年 10 月を皮切りに重ねてきた防衛省交渉、それに伴う国会での議員質問、資料請求を通して得られた新事実・知見をもとに新たな署名活動を進めることを決定した。

土砂採取計画が、

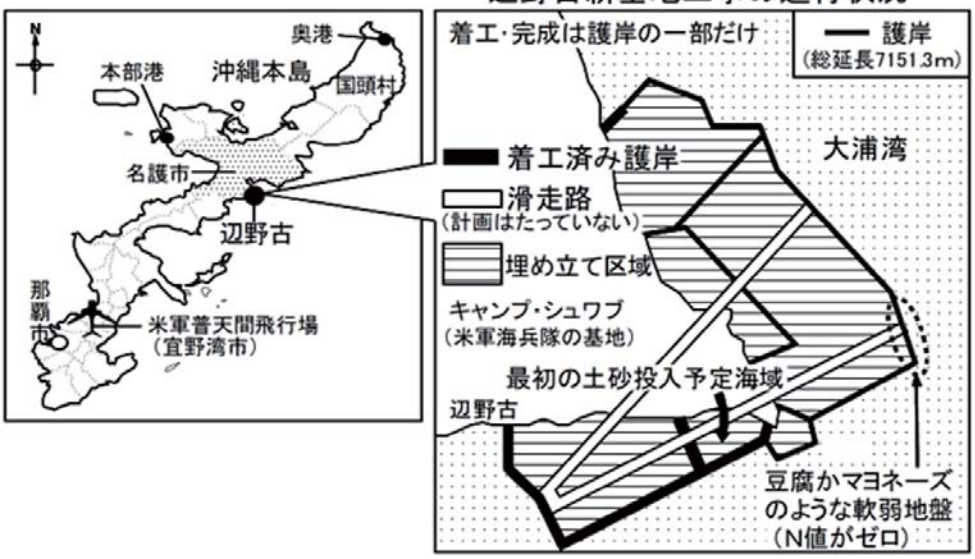
①特定外来生物防除策のない採取計画であること、

②生物多様性条約・生物多様性基本法そして閣議決定「生物多様性国家戦略」に違反した計画であること、

③生物多様性国家戦略を守る責務がある防衛省が、特定外来生物の防除対策を示さない土砂投入を強行することは犯罪行為であること

など、生物多様性の保全をキーワードに前面に押したて、土砂採取計画の撤回を求める署名である。辺野古土砂全協が 2013 年 3 月から進めてきた署名にご協力頂いた市民の皆さん、新たな署名として再度のご協力をお願いする。これまで署名をして頂いた皆さんもこの新たな署名に参加できる。あらためて「新たな署名」にご協力を呼びかけてくださるようお願いする。

辺野古新基地工事の進行状況



ゲート前座り込み風景
（写真提供渡田さん）

通知日 土砂投入なし

新基地 市民ら海・陸で抗議集会

【辺野古問題取材班】米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古への新基地建設を巡り、沖縄防衛局が当初通知していた土砂投入開始日の17日を迎えたが、土砂投入は確認されなかった。護岸の工事や米軍キャンプ・シュワブへの資材の搬入などの作業も確認されなかった。一方、新基地建設に反対する市民らは予定地の辺野古沖などで抗議活動を展開し「基地は造らせない」と訴えた。

辺野古 強行の現場から

海上では、オール沖縄会議現地闘争部主催の辺野古集中行動2日目として、市民ら約60人が抗議船3隻、カヌー約40艇で周辺海域に繰り出した。抗議した市民

「違法工事をやめろ」と声を上げ工事に反対する市民ら＝17日、名護市辺野古海上

プラカードを掲げ、抗議する市民ら＝17日、名護市の米軍キャンプ・シュワブゲート前

2018 年 8 月 18 日琉球新報

辺野古ゲート前座り込み集中行動（8 月 16 日～ 18 日）報告

渡田正弘（グローバリゼーションを問う広島ネットワーク事務局長）

辺野古新基地建設阻止のために、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ基地ゲート前で 8 月 16 日から 3 日間行われた「ゲート前連続集中行動」（主催：オール沖縄会議現地闘争部）に参加したので報告します。

8 月 16 日ゲート前行動

天候は雨。朝 6 時半に那覇市の県庁前に集合し、市民団体が用意してくれたバスで辺野古ゲート前に。早速、ネット柵と警備員にガードされた狭いゲート前歩道に座り込む。8 時から抗議集会を開始。「オール沖縄会議」現地闘争部長の山城博治さんが挨拶。海での抗議行動を担うヘリ基地反対協議会の安次富浩共同代表からも報告。予想通りに土砂搬入はないので、ゲート前集会は早めに切り上げてデモ行進した後、抗議用テントに移動し集会を継続。沖縄各地から、また全国からの参加者が発言。稲嶺前名護市長や伊波洋一参院議員も発言。米国カリフォルニア大学の学生 17 人も来ていた（米軍統治下の沖縄の歴史調査目的で滞在中）。参加者約 200 人。

通常は 4 時頃まで抗議行動をするが、土砂搬入がないので 2 時で切り上げバスで県庁前に戻った。私はすぐにタクシーで『不屈館－瀬長亀次郎と民衆資料』に行き、“不屈の人” 瀬長亀次郎の足跡と民衆の闘いを学んだ。

8 月 17 日ゲート前と辺野古浜集会行動
（政府による土砂投入通知日）

天候は晴れ、暑い。昨日同様、朝 6 時半に県庁前からバス（ほぼ満員）で辺野古へ出発。同じくゲート前歩道に座り込む。8 時から抗議集会を開始。土砂搬入の動きがないことを喜び、翁長知事の遺志を受け継ぎ基地建設阻止行動を不退転で継続することを確認。昨日同様、ゲート前をデモ行進し、抗議用テントで集会を継続。約 200 人参加。海上では市民ら約 60 人が抗議船 3 隻とカヤック約 40 艇で周辺海域に繰りだし海上大行動デモ。

午後からは、辺野古浜で「土砂搬入を許さない浜集会」を開催し、ゲート前座り込みグループと海上抗議グループが合流した。スイカの差し入れで喉を潤し、浜から工事現場を見届けた。参加者約 450 人。

今日は、昼食時にゲート前から徒歩 7 分の場所にある民宿「クッション」を訪問。ここはドミトリー形式で、宿泊代 2000 円、駐車場有の便利な場所。また「沖縄平和サポート」による抗議運動に関する資料等の販売スペースも併設され便利。2 時頃に辺野古を発ち、県庁前に戻る。今日は『対馬丸記念館』を訪問。今さらながら、多くの罪のない子どもたちが戦争の犠牲となった事実に愕然とする。

8 月 18 日ゲート前行動

天候は晴れ。6時半に県庁前を出発。貸し切りバスはほぼ満席。今日もゲート前座り込み、デモ行進を済ませ、抗議用テントで集会を継続。カソリックのシスター数人も参加し、発言と歌も。沖縄各地からの参加者が発言され、色々な話を聞くことができた。近代以降、私が生まれ育った「日本（ヤマト）」が「沖縄（ウチナー）」を抑圧してきた歴史を再認識。沖縄の人達に犠牲を強いてきた「琉球処分」「沖縄戦」「米軍統治と米軍基地の押しつけ」など現在に繋がる差別の歴史への反省が欠かせない。それにしても、重い歴史を背負いながらも、闘いの歌を明るく歌い飛ばす不屈でしなやかな沖縄の運動スタイルに脱帽だ。

今日は、県庁前に戻ってから、「沖縄県立博物館」に行った。沖縄の歴史と文化が “まるわかり” となる便利な博物館だ。次回には十分な時間を作ってじっくり学びたい場所だ。

闘いの現場から沖縄の現状を学ぶ
県民大会に 7 万人

8 月 11 日、「辺野古移設反対沖縄県民大会」が開催され、悪天候にもかかわらず参加者約7万人。急逝された翁長知事を追悼し、新基地建設阻止に懸けた思いを受け継ぐことを確認した。8 月 14 日には、普天間基地所属のオスプレイ 2 機が奄美空港と米軍嘉手納基地に緊急着陸し、基地周辺住民の憤りを呼んだ。4 月の「500 人集中行動」では 6 日間、連日 500 人以上が集まった。資材搬入用ダンプの基地搬入を止めるためのスクラム座り込み行動を果敢に実施。そして、機動隊に強制排除される。いわゆる “ごぼう抜き” だ。しかし抗議参加者はひるまず必死の抵抗を繰り返す。

「勝つまで諦めない」を支えに

4 月の集中行動に参加できなかった私は、やっとの思いで今回初参加。“ごぼう抜き” 体験を想定して心の準備？をしたが、残念ながら未体験。しかし、沖縄の人たちは 2014 年 7 月から休みなく座り込み行動を継続し 1500 日を超えた。酷暑の日も雨の日もゲート前に足を運ぶ市民には本当に頭が下がる。闘いの最前線現場を体感することで、多くの学びを得た。沖縄の食べ物は美味しいし、せっせと辺野古に通うぞ！！

「辺野古の闘いは米国や日本政府が相手で、ゾウにアリが挑んでいるようなもの。でもたくさんのアリが刺せばゾウでも倒れる」、那覇市の元気な女性の言葉より。

抗議用テント前の看板

小学校「特別の教科　道徳」教材『美しい空の勇者』もう一つの指導案

山川 滋（教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま）

今年度（2018 年度）から小学校「特別の教科　道徳」教科書が授業で使用されています。しかし，道徳学習指導要領が「考え，議論する」という看板を掲げていても，教材自体がジャパンオンリーの愛国心や文化や伝統を重視したものが多く，教材通りに授業をすると，文科省が決めた内容項目（いわゆる徳目）の目指す方向に子どもたちを導いていく危険性あることが分かってきました。

そこで，私たちは全国の教科書問題を考える団体と共に「人権を大切にする道徳研究会」を設立して，多くの教職員や保護者に道徳の授業について考えてもらうために「もう一つの指導案」を HP に公表しました。（https://www.doutoku.info/plan1.html）

広島市は学校図書を採択したので，私たちは学校図書の教材について以下の「もう一つの指導案」を作成し，今後順次掲載していきます。

私たちが作成した「もう一つの指導案」

1 年生「にわのことり」　2 年生「わたしの学校，いい学校」
3 年生「めざまし時計」　4 年生「心を結ぶ一本のロープ」
5 年生「今しかできないことをがんばって！」
6 年生「美しい空の勇者」

もう一つの指導案（6 年生）内容項目【勤労，公共の精神】

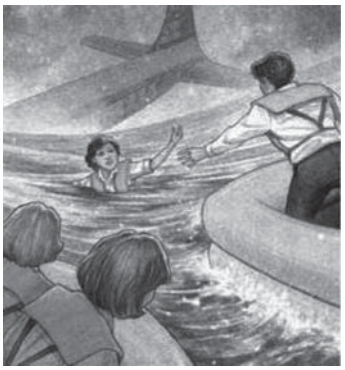
『美しい空の勇者』～自分，がやらなければ～

〈あらすじ〉

昭和３５年（１９６０年），東京の羽田を飛び立った旅客機は，フィリピンのマニラに向かっていました。アメリカ人のデビット・ロール機長と７人の乗務員のうち，たった一人日本人の女性がいました。スチュワーデスの淵上百合子さんです。

沖縄を離陸して２時間ほどたった時，ロール機長は，ふと，エンジンの音が，いつもとちがうのに気付きました。左のつばさの第２エンジンのプロペラが，不規則に空回りしているのです。そこから小さな火が，へびの舌のようにつばさをなめています。淵上さんは，あわてる乗客にシートベルトをしめさせました。かのじょの声は落ち着いており，やさしいほほえみは消えませんでした。

飛行機は，ぐうっと機首を下げフィリピンの東方４０キロメートルの，太平洋に不時着しました。



大きな救命いかだが四つ，次々に海上に降ろされました。淵上さんは，すばやくお客様の手を引いて，大声でさけびました。「フカがいますから，救命いかだの中の方に飛びこんでください。」（何よりもお客様を無事に，いかだに乗せなければ―。）

こうして，わずかな時間に，お客様はだっしゅつすることができました。あとは，７人の乗務員のだっしゅつです。と，見ると，ロール機長の足から血がふき出ていたので血止めの包帯をしてあげました。もしも，ロール機長の血が，フカの大群を呼び寄せたら大変なことになります。

機長は淵上さんに「あなたは，早くだっしゅつしなさい。あとは，私たちがやるから―。」と，何度もくり返してさけびましたが，かのじょはきっぱりと，「私は乗務員の義務を果たします。」と言ったのでした。そして今，全員のだっしゅつを見届けてから，初めて海に飛びこんだのでした。淵上さんは，激しいスコールの中を８分間も泳いで，いかだにたどり着きました。その後ろで，大きな飛行機の機体は，海の中にしずんでいきました。

いかだにはい上がる淵上さんに，たくさんの手が差し出されました。乗客たちはほっとした顔で，拍手をするのでした。

「あっ，きれいなにじです。」

とつぜん，淵上さんがさけびました。かのじょの指さす先の空に，美しいにじの橋がかかっているのでした。

「きれいですねえ。」と，だれもがだき合って喜びました。

４つのいかだは３時間ひょうりゅうした後に，飛行艇に助け出されました。

ロール機長は，「君は，日本の美しい空の勇者だ。」と言って，何度も何度も淵上さんをはめるのでした。

〈出典〉永井萠二：作「美しい空の勇者」による。『ほんとうにあった世界の美しい話６―日本編』（２）』より。塩谷博明：絵

（1）本教材について

▼自己犠牲を美化するこの教材の視点は，戦争中の軍国主義の精神に思えます。自己犠牲を美しくて勇気ある姿だとして描くことで，自己犠牲が「美しいこと」「勇気あること」「正しいこと」だと思いこませ，たとえ無謀な行為で命を落とすようなことになってしまったとしても，それを褒めたたえることによって，さもそれが「人としてすばらしい姿」であったかのような錯覚を刷り込む教育はとても怖いことだと感じました。

▼機長は淵上さんに「…早く脱出しなさい…。」と何度も繰り返し叫んだけれど，彼女はそれに対し「乗務員の義務を果たす」ために，乗務員全員の脱出を見届けて海に飛び込んだ，とあります。彼女の言う「乗務員の義務」とは何なのかは本文に書いてありません。他の乗務員の脱出を見届けることが義務であるとはとうてい考えられません。この場合，指揮統率，判断，意思決定（合意は必要だし，判断が間違っていれば意見を言うべきですが，そのようなことは書かれていない。）は，機長の役割です。緊急時に

大切なのは，自分の役割をきちんと果たすことです。「自分がやらなければ」の気持ちで行動することは，返って被害を大きくしてしまうのではないでしょうか。この教材は子どもたちに自己犠牲を強いる方向に導く危険性があります。淵上さんの行動の是非や，自己犠牲について考え議論することが必要です。

（2）本教材を扱う際に，特に注意すべきだと考えたこと

淵上さんの行動を機長は「美しい」「勇気ある」行動だと褒めたたえたけれど，本当にそうなのか，そうでないのか，自由に議論できるようにすることが必要です。「自分がやらなければ」という副題がつく教材名「美しい空の勇者」，それに，『活動』（別冊）の「考えよう」で「ロール機長から，『君は，日本の美しい空の勇者だ』とほめられた時，淵上さんはどんな気持ちだったでしょう。」，『みつめよう』では「自ら進んで仕事をして，それを成しとげた時，どんな喜びを感じましたか。」として，1で考察したような，淵上さんの行為について、自己犠牲のについて考える視点は無く，「自己犠牲の美しさ」に向けて考えを深めさせる構成になっています。
そこで，教科書は使わずに読み聞かせをするか，『活動』（別冊）は使わずにプリントにするか，どちらにしても「副題」「最後の 3 行，機長がほめたところ」は使用しないという選択をすることも考えられます。

（3）指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	◆送りバントと自己犠牲について考える。	・教師が参考資料１の話をして，「送りバント」が不本意な選手や，理解できない国や文化，考え方があることを知らせる。
展開	◆教材文を読み，淵上さんの行動について考える。 ＊あわてる乗客に笑顔で冷静で落ち着いて接するのがすごい ＊乗客が無事に脱出するための手助けや大きな声での指示が適切だ ＊落ち着いて機転のきいた勇気と責任感のある行動がすばらしい ＊機長のためだけではない，みんなのことを考えた行動 ＊激しいスコールの中をサメのいる海で８分間も一人で泳いだ。よっぽど自信があったのか？ ＊なぜ，自分が見届けなければと思ったのだろう。淵上さんは機長の指示に従わなければならないし，そんな義務はないはずなのに ＊また事故が起きたとき，機長の指示に従わず，最後まで残ろうとする乗務員が出るかもしれない。	・淵上さんの行動を「勇気のあるすばらしい行動」と考える「機長の指示に従わず自分の命を顧みない無謀な行動」だと考えるか，自由に意見を出し合って話し合いたい。 ・乗務員は機長の指示に従う義務があることを知らせる。 ・淵上さんにとって「乗務員の義務」とは何のことだろう。
まとめ	◆自分が機長ならば，淵上さんにどんな言葉をかけるか考える ◆自分が淵上さんならどう考え，どう行動するか考える	・参考資料２を読み自分の考えを整理する

（4）参考資料１

歴史小説家の池田平太郎さんの「送りバント」についての文章。（「送りバント」というのは，野球で塁に出ている選手を，バッターがバントで先に送ってバッターはほぼアウトになる作戦）
（前略）先日，プロ野球 OB で構成するマスターズリーグで土井氏が打席に立ったとき，「送りバント」のサインが出て，これに氏が怒った･･･という話を耳にしました。曰く，「誰だってバントなんかやりたくないんだ。でも，チームが勝つために必要だから今までやってきただけのことだ」と。（中略）この点で，元西鉄ライオンズの豊田泰光氏がその著書の中で，「元阪神監督の吉田義男さんがフランスで野球を教えていた時のこと。送りバントを命ずると，打者が『なぜ私が犠牲にならねばならないのか。私には打ってヒーローになる資格はないのか』と訴えてきたそうだ。･･･と。（後略）

（5）参考資料２

「美しい空の勇者」では緊急事態に，機長の指示に従わず，機長や他の乗務員の脱出を確かめることが自分の義務だと考えて，最後にフカのいる海に飛び込んだ淵上さんは，危険な自己犠牲を払いました。「ロール機長は，『君は，日本の美しい空の勇者だ。』と言って，何度も何度も淵上さんをほめるのでした。」という表現は，「自己犠牲」は「尊く美しいことだ」という同調圧力を子どもたちに強いているといえます。なぜ淵上さんは，自分が残ることを「義務」と考えたのかについて考え，議論する必要があるのではないでしょうか。（教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま）
（「自己犠牲」というのは，誰かを助けるために自分の労力・体・生命を失うこと）

（6）おわりに

この指導案は，子どもたちが道徳教材をそのまま受け入れるのではなく，授業の中で教材について多面的・多角的に考え議論してもらうための一つの見方を提案したものです。また大人にも「特別の教科　道徳」を批判的な視点で読み，考えてほしいと思っています。

安保論理を超えて平和共生の道へ
― 昨今の朝鮮半島平和ムードについて ―

金鐘哲（『緑色評論』発行・編集人）　翻訳：金亨洙

8 月 5 日 8.6 ヒロシマ平和へのつどいメインゲスト
金鐘哲さん（左）、通訳は息子さんの金亨洙さん（右）
写真提供浅川泰生さん

1. 現在の南北対話の背景と韓国の民主化運動

本日、この「広島平和への集い」において皆様とお話できますことを大変嬉しく思っております。ご存知のように昨年まで朝鮮半島には戦争前夜の空気が漂っておりました。しかしながら、年を越してから雰囲気は急変します。北朝鮮の金正恩委員長は新年の辞にて非常に重要な発言を行います。つまり、7 回に渡る核実験と大陸間長距離ミサイル開発の成功を通して北朝鮮は核武力を完成した、今後は経済建設に力を注ぐと宣言したのです。

私はこの発言を聞いて、北朝鮮と韓国が対話再開に向けて動き出すだろうと、そして北朝鮮は韓国を通して米国との関係改善をはかることと予想しました。米国が主導し国連で決議された強力な経済制裁の圧力を北朝鮮がこれ以上耐えるのも難しいでしょうし、絶えず核兵器とミサイルの性能を発展させていっても、もはや行けるところがないことも明白な事実だからです。そして最近の北朝鮮の社会経済の状況は以前とはかなり変わっていると、私たちは聞いております。何百万人の平壌の市民は携帯電話を持っており、北朝鮮全域に 500 余の自由市場（ジャンマダン）経済が活気付いているということです。1990 年代における非常に厳しかった飢餓の状況を、国家の助け無しにほぼ自力で乗り越えてきたのが北朝鮮の人民たちです。彼らの生活向上を求める要求に北朝鮮当局がこれ以上背を向けられなくなったのも重要な事実です。したがって、北朝鮮当局が南北間、そして米朝間の関係改善を積極的に模索するであろうということは十分に予想できたことです。

それにタイミングよく平昌冬季オリンピックが開催されました。金正恩委員長の発言の意味を理解していた文在寅大統領は北朝鮮がオリンピックに参加するよう積極的に促し、北朝鮮もこれに快く応じました。そこで北朝鮮と韓国の交流が 10 年余ぶりに再開され、これを基についには 4 月 27 日に板門店にて歴史的な南北首脳会談が開催されました。

日本からは板門店会談をどうご覧になったか分かりませんが、韓国の我々にとっては感激極まりない出来事でした。南北の首脳会談は、金大中や盧武鉉政権時にも行われました。しかし今回の会談は質的に異なりました。板門店で出会った両首脳からは平和の道へと進みたいという熱意が伝わってきました。文在寅大統領は対話に乗り出してきた金正恩委員長の決断と勇気を重ねて讃えましたし、北の若い指導者は南の指導者の言葉を謙虚に受け止め、終始礼儀正しい態度を見せていました。もちろん、このような言動も単なる見せかけかも知れません。しかし、独裁者には似合わない、そのような「演技」まで見せながら朝鮮半島の緊張関係を終わらせたいという自らの意思を表したのであれば、それはむしろ彼の平和に対する熱望がとても大きく、またそれが本物であることを意味するとも解釈できます。

今回の板門店会談の特別な点は他にもあります。つまり、今度こそ朝鮮半島を囲んだ冷戦構造が真の意味において崩壊し、新しい南北関係および国際関係が築けられる兆しがかなり具体的に垣間見えたという点であります。朝鮮半島と東アジアに平和体制を構築するには様々な条件が整っていないといけません。その点、今は絶好の機会だと思われます。

今まで朝鮮半島の諸問題の解決を妨げてきたもっとも大きな要因は、当事者である米国と北朝鮮、そして韓国の国家権力が相手の意見に耳を塞いでいたことだと言えます。ところが、現在は幸いにも南北はもちろん米国のトランプ政権もが北朝鮮の核問題の平和的解決を、実際に望んでいる状況となりました。

周知のようにトランプ大統領は今政治的に相当厳しい状況に置かれています。それは彼が大統領に就任して以来見せてきた乱暴な言動と理性的とは言えない一連の政策の当然な結果だと言えます。しかしながら、トランプ氏も畢竟は政治的な支持基盤の拡大を通して今年の秋に行われる中間選挙での勝利と再来年の次期大統領選挙における再選を望んでいることでしょう。その彼が歴代の大統領たちは解決できなかった難題、つまり北朝鮮の核問題を解決するのであれば、彼にとって非常に大きな政治的資産になるに違いありません。

事実、昨今の朝鮮半島の情勢は関連している当事者たちの利害関係が運良く合致してもたらされた、稀に見る状況です。単刀直入に言えば、従来の米国の北朝鮮政策は「現状維持」政策でした。北朝鮮と米国は、時には厳しい言葉を交わしながらすぐにでも戦争に突入するかのような態勢を演出してきましたが、実際において北朝鮮には米国を攻撃できる能力も、その理由もありません。そして米国も実際に戦争が勃発するのであればとてつもない被害が双方にもたらされることを重々承知しています。つまり、戦争はお互いにおいて脅迫の文言にすぎません。

そして最も重要なことですが、朝鮮半島における緊張状態が続くことは、米国の実質的な支配勢力、即ち「軍産複合体」の利益に符合します。東アジアにおける冷戦構造がこれだけ持続してきた理由も結局はそのためだと言えるでしょう。

ところで、そのような米国政府がなぜ態度を変えたのでしょ

うか。明確に説明することはできません。しかし、二つほど重要な理由を挙げられます。まず一つ目は、トランプ大統領が軍産複合体とあまり関わりのない人物であるという点です。米国優先主義を主張するという点において、トランプ氏もアメリカの他のエリート政治家たちと変わらないのですが、不動産業で富を得た彼は主流既得権層の支援を受けることなく大統領に当選されました。したがって、軍産複合体の利益を優先的に考慮する理由がない、例外的な政治家だと言えます。もう一つの要因は米朝首脳会談の必要性をトランプ大統領に切実に説明し、ついにはその説得に成功した文在寅大統領の仲裁者としての役割です。

実は、私は文在寅大統領がとってきた姿勢と役割こそ最も大事であったと申し上げたいです。彼が、北朝鮮を対話の場に導き出し、また米国の大統領を説得するのに成功したのは、平和に対する彼の切実な思いがあったためでもあるでしょうけれども、朝鮮半島の将来に対する彼の堅実で、また現実的なビジョンのためでもありました。例えば彼はとある公の場で「南北が共に暮らすかどうかはともかく、お互いに干渉せず被害を与えることなく共に繁栄し、平和に暮らせるようにしなければいけない」と発言したことがあります。この言葉には所謂「吸収統一論」を排除する立場が表明されています。思うに、文在寅大統領のこの発言は北朝鮮を対話路線へと転換させた大きな力となっていたのではないでしょうか。

文在寅大統領のこの発言は、観念的で非現実的な主張ばかりを繰り返しても、それは現実的には状況をより難しくするだけだと、痛感した結果だと思われます。そしてそれだけ分断体制と冷戦構造を乗り越えていこうという思いが切実であることを意味するでしょう。

この 70 年間の分断体制が朝鮮半島の住民たちにとって如何なる鎖となり、また束縛であったか、日々痛いほど痛感しながら生きてきた当事者でなければ、平和を願う想いというのを実感するのも、理解するのも難しいでしょう。その上、朝鮮戦争以降の停戦体制のなかで銃声は止んだにしろ、お互いこれ以上ない仇敵のように銃を向け合い、終わりの見えない敵対関係のなかで生きるしかない、険しい状況が続いてきました。それで韓国と北朝鮮には長らく非常体制が維持されてきたのです。非常体制のなかでは人間らしい自由な暮らしは根本から否定されます。独裁支配体制の世襲を固く守ってきた北朝鮮は言うまでもなく、韓国においても長らく独裁政治と軍事政権による暴圧政治が繰り返されましたし、市民の権利と人権が根本から抑圧されてきました。

大韓民国の憲法はこの国が民主共和国であると宣言しており、全ての権力が国民から生ずると明示しています。にもかかわらず、実際において 1948 年大韓民国政府が樹立して以来韓国を実質的に統治してきたのは憲法ではなく国家保安法でした。この国家保安法というのは思想、言論、表現、結社の自由を抑圧する目的でつくられた、日本の植民地時代の治安維持法を受け継いだ悪法です。もちろんこれは韓国で共産主義を取り締まるための法律です。したがって、国家保安法は反国家団体（北朝鮮）に対する協力はもちろん、好意的、肯定的な意見表明も禁止しました。そしてそれに違反すると重刑に処されました。結果、歴代の独裁政権はこの法律を、政権に批判的な人々や、また反対勢力の弾圧に積極的に活用しました。それで数多い良心的な知識人たちや学生、労働者、市民、海外の同胞に北朝鮮の工作員という嫌疑をかけ、無慈悲に人権を蹂躙してきたわけです。絶対的な権力が思うがままに人々を逮捕し、拷問し、また殺害までしてもこの全ての国家的暴力と悪行が国家保安法違反といった論理で正当化されてしまう状況の中、人は結局奴隷として生きるしかありません。事情を知らない外国の方は、分断というと少し不便で不安な状況だと思うかもしれません。しかし、分断された朝鮮半島の住民にとって、それは口では言い難いほどに苦しい抑圧と恐怖、そして極端に不合理で不条理な生活を体系的に強要されるシステムとして作動してきました。

「ロウソク革命」を通して誕生した新政権の文在寅大統領は人権弁護士出身です。だからこそ彼は国家保安法の弊害を誰よりも良く解っています。それで彼は国家保安法という一つの法律の改廃よりもこの国家保安法の根本的な存立根拠、つまり敵対的な南北関係の解消が必要だと思っているのかもしれません。大統領に就任してすぐに直面した北朝鮮の核危機状況のなかでも、以前の保守派政権のように安保体制の強化のみを強調するのではなく、北朝鮮が対話に応じるように繰り返し訴えたのはそのためであるでしょう。

ここで私が特に強調したいのは、文在寅大統領のこのような対話路線は、戦争の恐怖はもちろん奴隷的な生活を強いる「安保論理」からも逃れることを熱望している多数市民の絶対的な支持を基盤にしているという点です。つまり、今ようやく朝鮮半島に訪れてきた平和ムードは、多数の市民がロウソクを持って広場に集い、民主主義を求めた結果だと言えます。

2016 年の冬から 2017 年の春まで続いた韓国の大規模のロウソクデモは、無能で腐敗した政権の崩壊だけをもたらしたのではありません。ひいては朝鮮半島の冷戦構造を終わらせ、平和体制をつくりあげる起爆剤になったと言えるでしょう。これは非常に重要な事実です。つまり、市民が心を一つにして能動的に行動するときに民主主義は蘇り、その結果自らの運命を根本から改善できる可能性が生じてくるという真理を、我々はもう一度確認できます。

2. 朝鮮半島冷戦構造の終息が持つ世界史的意義

冷戦構造が清算され、それで人々の生活を根本から縛り付ける安保論理の支配から逃れることができたら、朝鮮半島の南と北には、たとえ統一は遠い未来のことだとしても人間らしい生活に対する新しい模索と実験が自由に行われるに違いありません。しかし考えてみれば、これは朝鮮半島の住民たちだけに重要なことではありません。朝鮮半島の緊張状態が解消されるのであれば、それは今日残っている最後の冷戦

地域の一つが消滅することを意味します。ならば、今まで世界を支配してきた安保論理は著しく弱体化するだろうと充分に予想できます。

私が思うに、複合的な危機に直面している今日、最も必要なのは平和な共生の思想とその実践です。ところが、この平和な共生への道を妨げる最も大きい障害は、政治・社会的体制と理念の違いを認めようとしない冷戦的思考、そしてそれと一対になっている安保論理だと言えます。その点、朝鮮半島の冷戦構造の終息は世界史的にも非常に大きな意義があります。

振り返ってみればこの 70 年間米国が世界の覇権国家として君臨できたのはその膨大な経済力と軍事力だけのためではありませんでした。何よりも第２次世界大戦において米国が最大の勝者となり、そしてソ連という新しい「敵」を作り出し、その敵に対抗するための安保体制を集中的に構築したことによって可能になったと言えます。そしてこの安保体制の強化に決定的に寄与したのが朝鮮戦争でした。世界大戦が終結され、米国の政府と支配層としては国民に巨額の安保及び国防関連予算の必要性を納得させるための名分がなくなりました。その時、都合よく朝鮮戦争が勃発したのは、米国の国務長官ディーン・アチソンが言ったように、「天佑神助」でした。その結果朝鮮戦争はこんにち米国の安保体制を構成する核心的な機関、即ち国家安保会議（NSC）や CIA、ペンタゴン等の新設ないし強化に重要な口実となり、延いてはその後米国と世界を実質的に統治することになる「影の支配者」、軍産複合体の形成にも決定的な影響を与えました。

そしてその朝鮮戦争が終結することなく長らく停戦状態が続いたのは、米国の覇権的世界支配と軍産複合体の温存や拡大にも大きく役立ったと言えます。そればかりではありません。1990 年代の初め頃ソビエト社会主義圏が崩壊するにつれ突然「敵」を失ってしまった軍産複合体からすれば、朝鮮半島の緊張状態や中近東地域における不安な情勢が変わらず持続しないといけませんでした。この両地域における戦争、あるいは準戦時状況が終息に向かえば軍産複合体の存立根拠が消滅してしまうからです。

皆様もお分かりだと思いますが、この数ヶ月間の朝鮮半島の平和ムードについて世界の主要メディアが見せた反応は非常に否定的なものでした。保守、リベラルを問わず世界の大概のメディアがそうでありました。その中でも日本のメディアは特異でした。日本の主要メディアは最近の朝鮮半島の情勢の変化が如何に重大な歴史的意味を持つことであるかを完全に無視して、ほとんど例外なく「拉致問題」ばかりを集中的に取り上げていました。私にはこのような日本のメディアの態度は情けないというよりは、あまりにも安易でまた愚かにしか見えません。

ところで、メディアがこのような態度を見せてくるのはなぜでしょうか。彼らは今まで北朝鮮の核問題の解決に失敗してきたのは北朝鮮側の騙しのせいだと断定し、今度も北朝鮮の「時間を稼ぐための術策」だと主張しています。しかし、このような論調は言論の基本的な責務である「事実確認」さえもない単なる主張にすぎません。これについてここで詳細に説明する余裕はありません。但し、長い間北朝鮮の核問題に実務的に携わってきたジョン・メリル国務省情報調査局元北東アジア室長の話に耳を傾ける必要があります。彼は 5 月 2 日付の『京郷（ギョンヒャン）新聞』とのインタビューにおいて、北朝鮮の核問題が解決に至らなかった責任は北朝鮮側にもあるが、米国と韓国側にもあると明確に指摘しています。つまり、米国と韓国も北朝鮮との間に交わした約束を破ってきたということです。

それなのになぜ世界の主流メディアはまるで北朝鮮がペテン師でもあるかのように一方的に決め付けながら、せっかくの対話と交渉の努力に水をさそうとするのでしょうか。様々な理由があるでしょうが、結局のところ彼らは従来の安保論理を基にした世界秩序の変更を望まないからではないでしょうか。それに彼らには朝鮮半島の住民たちが感じる平和に対する切実さや強い思いもあるはずがありません。万が一朝鮮半島で戦争が勃発したとしてもそれは彼らにとっては「他人事」であり、せいぜい対岸の火事に過ぎないからです。

有力なメディアが既存の秩序の変更を望んでいない理由を推察するのは難しいことではありません。今日大きな影響力を持つメディアはほとんど例外なく商業的論理に忠実なコーポレートメディアです。したがって、彼らの利害関係は世界秩序を実質的に支配している「軍産複合体」と直接乃至間接的に関わっているはずです。そのため軍産複合体の顕著な弱体化をもたらす可能性の高い朝鮮半島冷戦構造の終息を、彼らが歓迎するはずもありません。

３. 東アジア共同体構築への展望

しかし既得権勢力のありとあらゆる妨害にもかかわらず、私は最近の朝鮮半島の平和ムードが逆行することはないだろうと思っております。関連する当事者たち、つまり現在の米国、北朝鮮、韓国の当事者たちが自らの必要のためにも平和を強く望んでいるからであります。

もちろん韓国にも平和を歓迎しない既得権勢力が存在します。彼らは 70 年間朝鮮半島の分断と安保体制を利用して特権を享受し私的利益ばかりを追求してきた集団です。しかしロウソク革命を経て彼らの力は著しく弱化されました。これは去る 6 月に行われた地方選挙において明白に証明されました。守旧勢力を政治的に代弁している「自由韓国党」は、その存立が危うくなるほどまで完敗しました。

いま最も懸念すべきは米国エリート層の動向です。現在トランプ大統領は「ロシアゲート」で政治的に追い込まれており、対外的にも伝統の友邦または同盟国とあまり良い関係を築けておりません。そういった中で、欧米のメディアによって長年悪魔のように描写されてきた北朝鮮と、協議を行うのは容易なことではないでしょう。しかしトランプ氏は従来の政治的慣行にとらわれない人ですから、彼が歴代の大統領たちにできなかったことを成し遂げる可能性が高いということもまた事実です。

トランプ氏は米国が世界を指導しなければいけないとか、世界警察の役割を担う責任があるといったような観念など特に持っていないように見えます。実際彼に重要なのは実質的な利益であって、観念的イデオロギーや思想、信条などではないことは明白です。この点において彼は今までのエリート政治家た

ちと確然と区別されます。彼は伝統的な同盟である西欧の諸国を他の「外国」と変わらない態度で接しており、西欧の防衛になぜ米国が費用を払うのかと、一見乱暴にも聞こえますが、考えてみれば非常に正当な主張をしています。東アジアの現代史に精通しているブルース・カミングズ教授の言葉をお借りして言うならば、トランプ氏のこのような言動は彼が固定観念にとらわれず、イノセントアイズ（innocent eyes）で今日の世界を見ているからかもしれません。実際、世界に変化をもたらすためには利害関係や固定観念に縛り付けられない、イノセントアイズが必要だと言えます。そのような点において、トランプ氏は私たちが人間的には尊敬できない人物ではありながらも、彼の非主流的かつ異端的性格のために世界の変革に大きく寄与する人物になれるかもしれません。問題は、それが人類を希望と救済に導く変革か、それとも混沌と絶望に追い込む変革かということです。気候変化を無視し、難民や移民に対する彼の乱暴な態度を見ると先を楽観するにはまだ躊躇があります。

しかしながら、6 月 12 日のシンガポール米朝首脳会談直後の記者会見で、「米韓合同軍事訓練は北朝鮮の立場から見れば非常に脅威的である」といった、相手を思いやる発言を行い、その訓練の暫定的中断を宣言する姿などを見ると、トランプ氏はこの北朝鮮核問題だけは何が何でも解決したいと思っているに違いありません。だからこそ、我々はこの貴重な機会を活用し、今度こそ朝鮮半島及び東アジアの平和共存体制を実現していかなければなりません。

朝鮮半島の冷戦構造が崩壊され平和体制が構築されれば、東アジア全域の雰囲気も根本から変わってくることでしょう。考えてみれば、互いに相手を思いやりながら相手の生存権利を認めるのであれば、個人や国家が相互間において敵対する理由はありません。にもかかわらず、韓・中・日をはじめとする東アジアの国々はあまりにも長い間敵対ないし嫌悪の関係から抜け出せずにいます。

このような状況に対する最も大きい責任は、大東亜共栄圏という虚妄な目標の下、東アジア全域をとてつもない災いに陥れた日本が、戦後 70 年もの歳月が経っても自らの歴史的過ちを虚心坦懐に認め、謝罪する努力を見せてくれないことにあると言わざるを得ません。日本のこのような態度はもっぱら米国との関係ばかりが重要であり、アジア人との関係はどうなっても構わないという、非常に無責任でまた愚かな心理が働いてきたためだと思われます。近代初期の脱亜入欧の論理、つまりアジアに対する蔑視と西洋に対する崇拝の思想は未だ払拭されず日本社会に深く根付いているのではないかと思います。

もちろん日本社会やその文化の底流には素晴らしい平和思想、共生思想が流れています。明治維新直後の岩倉使節団が帰国した後芽生え、1920 ～ 30 年代に平和主義者であり、またジャーナリストでもある石橋湛山に受け継がれた「小日本主義」思想はその代表例だと言えます。そしてこの小日本主義の思想的伝統は戦前あるいは戦後において平和と民主主義を信奉する多くの人々の思想の中核を成してきました。問題はこの思想的伝統が一般市民の基本的教養となり、更には政治、経済、社会的性格を規定する原理にならないといけないという点です。そうなってきた際、かつて鳩山由紀夫元総理が唱えた「友愛を土台にした東アジア共同体」の実現は時間の問題になることでしょう。

振り返ってみれば、鳩山元総理が提唱した「友愛を土台にした東アジア共同体」という概念はこの間東アジア地域に登場した政治哲学の中でも最も新鮮で貴重な政治哲学として評価されるべきでした。しかし鳩山元総理の尊い理想が実現するには当時の東アジアを巡る情勢があまりにも殺伐としていて、またそれは何よりも米国の支配層の利害関係と衝突するものでした。その上鳩山元総理の構想には具体的な方法論が欠如していました。また彼の在任期間も短かったため、今日鳩山元総理の政治哲学を記憶している東アジア人はあまりいないと思います。しかし私は、私の考えている「平和で共生する東アジア体制」と、鳩山元総理の「東アジア友愛の共同体」とが本質的に変わらないと思います。名称は何であれ、このような共同体の実現のために我々が民族や国家の境を越えて協力しない限り、我々に未来は開かないと思います。

昨年の 10 月、19 次中国共産党大会において習近平主席が唱えた中国の未来像も、結局は似ているものでした。習近平主席は、中国は小康（シャオカン）社会を目指しながら世界が共通に直面している様々な難題を解決すべく他の諸国と緊密に協力することを約束し、殊に美麗社会と生態文明を強調しました。つまり現在東アジアにおいて日本の安倍政権を除けば、東アジアが目指すべき方向についての根本的な認識は共有されていると言えます。

この認識は今後北朝鮮が進むべき方向に関しても一つの指針になれます。北朝鮮には今後かなりの時間を費やし基本的な生活問題を解決するための産業開発やインフラ構築が必要となるでしょう。そしてその過程において世界資本主義システムへの編入は避けられないはずです。しかしその開発が共同体の崩壊や乱開発、極度の環境破壊、そして不正腐敗の蔓延といったもう一つの怪物社会の出現をもたらすのであれば、その影響は北朝鮮のみならず東アジア全域に及ぶことでしょう。北朝鮮の開発、発展が生態的かつ人間的に如何に健全に行われていくかという問題は北朝鮮社会に限った問題ではありません。

如何なる視座から見ても今東アジアはお互い反目し、葛藤や紛争に囚われている時ではありません。絶えず北朝鮮と中国の脅威ばかりを強調しながら、人種主義的かつ民族主義的感情を煽る既得権勢力にこれ以上籠絡されてはいけません。ご存知のように今世界は政治的、経済的、社会的、そして環境的に非常に危うい状況におかれています。そういったなか東アジアの国々がお互い敵対し、葛藤することに時間を浪費しているのはナンセンスだと思います。

朝鮮半島を中心に展開されている最近の情勢の変化は単なる地政学的変化に留まる事態では決してありません。それは我々が自ら閉じこもっている自閉的な枠組みを破り、国家と民族の境界を越え、真の平和な共生を構築できる新たな機会を与えてくれています。この、滅多にない機会を生かすためには東アジアの市民の間の活発な対話と協力が不可欠であると、改めて強調したいと思います。ご静聴ありがとうございました。

ストップ改憲！ 8.6 新聞意見広告 2018、今年も掲載することができました！
ご参加、ご協力くださった皆さま、ありがとうございました

8.6 新聞意見広告 2018 は、皆さんのご協力で、2280 を超える団体・個人のご賛同を頂き、掲載することが出来ました。皆さまのご賛同、ご協力を世話人一同、心より感謝申し上げます。

朝日新聞大阪本社版（関西を中心に北陸一部、四国全域、山口を除く中国地方）に 15 段（カラー版同封）、また東京セット版と西部版（沖縄含む九州全域）に 5 段を掲載しました。

通常国会では改憲発議はおろか国民投票法改正案の審議も出来ませんでしたが、安倍首相の総裁選 3 選後の臨時国会では改憲論議を促進し 9 条に自衛隊を明記する等の 4 項目の改憲案を強引に進めようとしています。人権を守らず、無責任極まりない発言、不祥事が続いてなお「安倍しかいない」この空気が蔓延しています。これは物事を真剣に考えようとしない政府の姿勢が人々を政治ら遠ざけているのではないかと思われます。

そのため今年は「改憲のその先に何が見えますか？」という静かな問いかけで、安倍 9 条改憲によって、この先どうなるのかを考えるきっかけにしてもらいたいと思いました。

また、賛同してくださった皆様のお名前・団体名を掲載させて頂きました。名簿整理をして何度も校正を重ねましたが、やはり間違いがありました。本当に申し訳なく、お詫び申し上げます。なお、お名前の間に合わなかった方々は下記の通りです。

東國裕　益永陽子　杉岡登美子　大田たか子　宅川昭典
穴山順子　小笠原伸江　吉田真理子　和田里眞弓　堀切文子
田中さき子・竹本雅子　佐藤徹　田木景三　栗栖徹　沖村博史
中村雅之・中村松美　鈴木満紀子・鈴木慰　森本宥紹
武本和代　小山広明　足立恵二　伊藤道子　岡野峰夫　末盛眞弓
柚木康子　貞弘英雄　高橋栄二　福井りょう子　三馬忠夫
大畠一洋　髙橋清信　松尾晴彦　宮﨑博史　石嶋秀直　匿名 4

朝日新聞 8 月 6 日東京セット版、西部版

7 月 31 日から一週間、朝日デジタルトップに掲載

▶ ☒原爆ドーム前での配布

8 月 6 日朝 7 時から原爆ドーム前で例年通り、意見広告カラー版と「市民による平和宣言」のセット 2000 部を配布しました。世話人や会員さん、いつも賛同してくださる 8・6 ヒロシマ平和へのつどいのメンバーと一緒に配布しました。

▶ デザイン…

今年は 1 昨年まで制作をしてくださった石岡真由海さんです。今回は 2 月（タイトルは石岡さんのアイディア）も掲載したので経費の関係で世話人と広告社で考えていましたが、見かねて助け舟を出してくださいました。静かに語りかける「改憲のその先に何が見えますか？」のタイトルもイラストもデジタルも石岡作です。改憲のその先に…　少女にも見える兵士の不安そうな顔、ドームが無言で訴えていることをご覧頂き、それぞれで想像して頂きたいものです。

▶ メッセージ…

賛同してくださった皆さんから寄せられた多くのメッセージの中から世話人会で選ばせて頂きました。軍事力で平和はつくれないことを知っている皆さんは「絶対に戦争する国にさせてはならない」という強い思いを訴ています。基地問題、原発、教育、労働、くらし・・・人権を破壊してきた安倍政権や、それを操る強大な国や財界、背後にいる超保守的な人々…　メッセージから日本の様々な課題について考え、行動して頂ければ幸いです。

▶ 英語版

海外の方々にも、ヒロシマの「戦争のない、核のない平和への思い」に共感していただこうと思い、今年もスティーブン・リーパーさんの協力を得て、タイトルと 9 条の条文を英語にして英語版を作ることができました。学生さんなどの若い人も英文に興味を持って受け取ってくれます。平和の発信には若者の力が必要です。期待します。（カラー版裏面）

▶ 3000 万人署名を掲載

意見広告の中の 3000 万人署名部分を切り取って、署名をしてはがきに貼り付けたり、封筒に入れて手紙を添えて送ってくださいました。8 月 31 日現在、2200 筆が集まり今も届いています。署名用紙を届けることが出来なかった人々からの贈り物のように思えます。これもひとえに皆様のお陰だと感謝しています。

なお、8.6 新聞意見広告 2018 について、ご感想、ご意見など、お寄せいただければ幸いです。

会 計　中 間 報 告　　（2018年 8 月 31 現在　　会計：佐々木孝）

収入の部		支出の部	
賛同金	400. 7 万円	広告料、紙面制作、チラシ、発送、カラー版印刷、ハガキ他	概算 440. 5 万円（未払含）

▼今年は 2 月と 8 月 2 回の新聞意見広告を掲載しました。8.6 以降、意見広告を見て賛同金をくださり 70 万円の赤字が 40 万円となりました。本会計から補填して、現在の残額が 50 万円。この会報も送ることができそうです。ありがとうございました。

8.6 新聞意見広告の反響

新聞購読者からの意見・感想・アンケート

8 月 6 日の朝、パソコンを立ち上げると 6 時前に既に「8.6 新聞意見広告を見た」とメールが来ていました。カラー版の配布のために原爆ドーム前に出かけ、帰ってみるとたくさんのメールが来ていました。7 日は、ハガキや封筒に入った署名が 30 通、8 日は、ポストを開けるとドドーっと落ちて 100 通を越える署名が送られて来ました。9 日以降は郵便屋さんが落ちないようにゴムでぎゅっと止めた署名がごっそりと入って 1 週間続きました。お手紙が入っているものもありました。中には新 9 条論、安全保障の質問、自衛隊は必要、核抑止論もあり、返事を書きましたが、圧倒的な他の皆さんのご意見をお届けしたいものです。全部は難しいですが可能な限り、ご紹介します。

メールで（省略等文責　藤井）

- 意見広告見ました。憲法９条を変えないで、憲法の平和・人権・民主主義が生かされる政治実現の訴えを支持します。　N
- 安倍 9 条改憲 NO! に賛同します。日本が成熟国家として、唯一の戦争被爆国として、世界に範を垂れるべき今、何故日本は逆行しようとするのか？　政府は何故愚かな方向に向かいたいのか？　戦争の後始末も終えていないのに。先ず周辺との関係を理性的手段で構築して欲しい。日本は、絶対的戦争放棄国家として歩む以外に毅然と立つ場所はない。 K/M、68 歳
- 朝日新聞の意見広告みました。沈黙が戦争を呼ぶのです。憲法の前文と９条の精読ですよ。小生 80 才の内科医師です。広島で原爆被爆者の診療した体験あります。妻は昨年ガンで冥界に送り小生も準備中。アインシュタインに聞きたい。なぜ核兵器を米国に作らせたのか。8.6 広島の慰霊に参加してほしい。　N
- 安倍 9 条改憲 NO! に賛同。子供や孫や国民のために。　N
- 朝日新聞の意見広告に感動しました。安部首相はただただ憲法を改正（改悪）した首相として歴史に残りたいだけ。9 条は世界的に貴重な遺産です。何としても死守したい。　M/Y
- ９条改憲反対！核兵器反対！に賛同いたします。　A
- 安倍９条改憲ＮＯに心より賛同します。原爆記念式典で広島市長、子ども代表、日本国総理、三者のスピーチの内、最も品性、品格にかけたものは総理でした。この無知無教養な総理は独裁者に向かっていると思えてなりません。日頃から９条改憲ＮＯにしろ、核兵器禁止にしろ、安全保障はどうするのだ、アメリカが主導し、日本国が盲従している軍事力均衡による安全保障概念に対抗し上回る哲学、概念必要ではないか考えます。皆さまの考え、ヒントなど、ご教授願います。　昭和 20 年生 T/M
- 意見広告よかったですね。今の日本の状況危なすぎ。改憲の向こうに見えるもの、と正反対の方向に、別姓訴訟の勝訴の向こうに、何が見えるか考えていきたいです。挫けずに。I/O
- 大変感動しました。安倍政権の暴挙には、私も声を挙げて来ましたが「原爆の日」に合わして意見広告を出された意義は大変大きいと思います。私が活動しております団体でも同じような取り組みをするように提案したいと考えております。　K/K
- 全面的に賛同します！　何を言ってもやっても聞く耳を持たない安倍政権に人間の心はあるのかと絶望的になりますが、諦めたら思うつぼ。くじけず頑張りましょう！　東京都八王子市 K
- 意見広告、素晴らしい。大賛成です。改憲のその先に何が見えますか？その通りです。アベ政治のトランプ追従外交の欠陥を選挙民は知らねばなりません。9 条は世界の宝！　私たちも「九条を地球憲章に」と世界中の知識人に働きかけていきます。　M/H
- 私は 78 才。幼児の戦争体験者です。父を戦争で亡くしました。人類は助け合う動物であり、殺しあう動物でもあります。人はその生命・財産の危機に瀕した時、冷静な判断力を失いがちですが、異常な先導者に従って一つの考えに固執し突き進む。かっての侵略戦争がそうでした。そして今、身に迫った危機もないのに過剰な反応をしています。安部首相をはじめ、特に一部政治家の過剰防衛思考です。奈良県出身の某女性総務大臣は、貴女には戦争の悲惨さが解らないのですか？と問われて、まだ生まれて居なかったので解りません…と答えました。今こういう政治家を選ぶ民度です。貴会には、戦争を仕掛けて来ないような、国と人々の品位向上を手助けする活動を続けて頂きたいです。人は、優しくて立派な人に暴力を振るうことは有りません。貴会努力に期待します。　M
- 朝日新聞拝見しました。活動に賛同いたします。　H/O
- 日本は自衛隊という戦力を持ち、海外へ出動しています。9 条は無視され、形骸化しています。この国は法が支配する国ではなく力が支配しています。社説は核廃絶をと叫んでいますが、核兵器が戦争を誘発するのではなく、核は戦争を抑止しています。主要国の核保有で戦争は有りません。戦争は両者共滅だからです。時代認識の転換が必要です。　千葉市　Y/F
- 憲法九条の結果は、沖縄です。沖縄をアメリカから解放する為には、憲法に自衛権を明記し、米安保条約に頼らず自衛軍を保持する事です。9 条は、自衛権、及び自衛軍の保持を禁じてはいない。　神戸　T

電話で（文責　藤井）

- 私は元自衛隊員で 18 ～ 24 歳まで実弾訓練をしながら戦争になったら怖いと思った。戦争をしたがる指導者ではいけない。戦争で経済をよくしようという考えは止めてほしい。あの戦争は間違ってなかったという政治家、指導者は怒りを持って止めさせるべきだ。新聞にこんな意見広告が出て嬉しい。北九州 F
- アベ政権が改憲をいうのは間違っている。父は戦争のことは話したくないと言うが伝えなくてはならない。拉致問題も安倍政権では解決しない。アベノミクスも失敗。安倍はもう首相をやめるべきだ。地獄へ落ちると思う。　金沢　50 歳女性
- 今朝新聞を見た。改憲には反対だ。頑張ってくださってありがたい。カンパをしたいと思う。　加古川 N
- 第九条の会ヒロシマの 8.6 新聞意見広告をみました。岡本三夫代表とキリスト教国際大学の同級生で牧師をしていました。頑張っておられる様子、嬉しかったです。　S/K
- 8.6 新聞意見広告に賛同してカンパします。　N
- 安倍 9 条改憲をとめるために頑張ってくださってありがとうございます。一人でもいいですか？　N・N
- 署名を送るのを迷っていました。勇気を出して送ります。　N

手紙で（入力　土井、省略等文責　藤井）

- 朝日新聞の意見広告を見て「オッ」と思わず声が出ました。日頃から安倍政府の言うことなすことに腹立たしく思いながら何もできていない自分がいます。せめてこれぐらいなら. . . とペンを執りました。核兵器、原発を全てなくし、軍事費を一人ひとりが安心して暮せる福祉、教育にまわすようにしたいものです。　老夫婦二人の思いです。　（大阪市・A/M）

- 八月六日の朝日新聞の意見広告を拝見。　”改憲のその先に何が見えますか？”のフレーズにドキッとしました。二人分だけですが署名とカンパを送ります。　（四條畷市・K）
- 署名、お送りします。安倍政治はウソを言う、隠す、はぐらかすの連続で、不誠実、傲慢以外の何物でもない。日本が誇るべき道徳観とか思いやりの精神を破壊しています。早く終わらせないと、取り返しのつかない事態になりますね。（京都・I）
- はいけい　私は戦争には反対です！　私の祖父が行ったからです。無事に生きて帰って来てよかったです。おばあさんとお母さんを大事に守ってくれました。修学旅行で広島に行って千羽づるとげんばくドームを見てすごく暗い所だし、生々しい絵やいりゅう品などあり、かたりべさんのお話も悲しかったことです。やっぱり平和が一番。毎日暗いニュースばっかりですね。でもうれしいことでは音楽やスポーツやアニメなどこっきょうをこえて世界の人にあいされています。^-^　M・S
- 平和があってこそ自由があり、平和があってこそ暮らせる
  平和があってこそ学べ、平和があってこそ教育ができ、
  平和があってこそ友だちを笑いあえる
  すべて平和があってこそ　応援しています。　大阪
- 私には孫が 4 人元気に育ってくれています。敗戦から 73 年、バブルにわき酔い痴れた 18 年、何が残ったのでしょう。平和であり続けるよう渾身の思いを込めて署名します。　N
- 8 月 6 日朝刊の朝日新聞の意見広告を見ました。素晴らしいと思います。私は女性九条の会の会員で鴻巣九条の会の会員でもあります。アメリカの言いなりの政治はやめ、日本の平和と自由は平和憲法によって守られていてこれからもずっとそうあるべきです。九条は世界の宝だと思います。　（埼玉県・M/T）
- 私は昭和 14 年生まれで小学校入学前、母は 30 代であの世に、父は戦地に、両親とも亡くなりました。大阪の親戚にあづけられましたが「B29」の空襲が毎日続き、奈良の田舎へ引越しました。73 年戦争のない日が続いています。戦争を知らない安倍は早く首相を止めてもらい平和な人生を送りたい。（奈良・S/S）
- 自民党の野中広務さんが９条について聞かれ「戦争から生きて帰ってきた者が、今もこうしていられるのは、憲法９条があったから」と明言されたのが心に残っています。　S/T
- 何としても戦争は止めたいです。　M
- 私たちの思いを代表して声を挙げて下さり、その勇気に感謝致します。73 年昔の戦争で、広島と長崎は原爆を投下され数 10 万人もの人々が亡くなりました。今、人をレーダーで感知し確実に人を殺す武器が多く存在し逃れようがありません。私たちの愛する夫、子ども、父や母たちが戦争で死んでしまうと考えるだけで苦しみをおぼえます。戦争をビッグマネーのチャンスとしシェルターを作るか外国へ逃れようとする政治家は許せないです。日本が再び戦争をおこなう国になってはならないのです。一人の力は微々たるものですが皆さんと共に闘うことで国会は動きます。頑張りましょう。　広島・K/S
- 私にも反対の意思が表わせました。有難うございます。（宝塚）
- 昔、大阪府下の市立図書館に勤務時に、劣悪な条件下の市内 13 ヶ所の開室日数増その他の向上を訴える署名運動を実施しました。人口 39 万の市で６万名余りの署名が集まり、市当局を動かし大きな成果を得、署名運動の力を実感しました。　N
- 今の政府に、どれだけの誠意を以って応える姿勢があるか、寒々しい限りなのですが･･･　頑張ってください！（大阪府）
- 「アベ与太者」政治を叩き潰しましょう。　（松山）
- ９条まもりましょう！次世代に渡したい憲法です。　（松山）
- 日本国憲法の意味を理解出来ない安倍政権の元で絶対に九条改憲を許してはいけません。人々の幸せの為の政治ではなく自分自身の満足の為に行っている数々の愚行これ以上許すわけにはいきません。高齢の為行動が出来ませんが応援します。（箕面）
- 最近、日本の民主主義の形がゆがめられていくのを感じます。９条改憲なんて絶対反対です。安倍総理、国会議員はもっと憲法を深く考え、学び直してください。　（兵庫県 T/N 74 才）
- 私たち日本人が戦争から学んだことが第９条に凝縮されていると感じます。武力より対話が大切～国家間においても個人間においても。これが人間社会がめざす方向のはず･･･　九条を壊して、日本が退行することがないことを祈ります。（大東市・Y/I）
- 子どもが幼い頃、戦争の話をすると「なぜお母さんはその時に反対をしなかったの」と云われ「戦争が当然の様に教えられたからね」子どもには理解出来なかったかも。今 87 才、日本が平和で賢い地球人であります様に。祈りをこめて。　（岸和田市・M/T）
- 私たちはもっと感性をすまして総理の「生命と財産を守ります」の嘘を見抜きたいです。守っているのは自分の立場だけ。軍隊で平和が守れるはずがなく、すぐ辞めてほしい。支持する人の気が知れません。戦中にもどるのが怖いです。（富山県・河合満和子）
- 意見広告で賛同団体に念仏者九条の会を見つけました。当初は浄土真宗本願寺派の僧侶有志で本願寺九条の会を結成したが、西本願寺より本願寺の名称用いるべからずとなり、念仏者九条の会に変更。兵戈無用、憲法第九條の精神です。（神戸・K/N）
- 憲法は手続き的に改正されていませんが、時の政権の解釈により徐々にその趣旨を変えられてきました。抑止力の名目で自衛隊が増強され、防衛という名目で予算が増大しました。単なる改正反対でなく、現行憲法の趣旨に沿って自衛隊を明確に定義し、安倍首相のような独裁的解釈変更がなされないようにする運動を期待します。趣旨に賛同し、署名をお届けします。　（神戸市・T/M）
- 私たちは日本国憲法を誇りに思い、現実を憲法の理念に近づけて行く努力をすべきです。現憲法をないがしろにする安倍首相には、早く辞めてもらいたいです。　（大阪市・F）
- 応援しています！！　頑張りましょう！　（神戸市・S/M）
- 平和が一番です。戦争でどれほどの血や涙が流れ今があるのでしょう。為政者は平和主義者であってもらわねば困ります。子供たちの未来が幸福でありますよう　（枚方市・A/K）
- いつまでも平和がいいですね。幸せの源だと思います。憲法九条の力は大きい。九条の会に賛同です。　（和歌山市・K）
- 誠意を全く感じられない現政府は大嫌いだ。　（堅田市・I）
- 絶対に戦争は駄目です。憲法は守ります。　（三原市・Y/T）
- 絶対に戦争は嫌です。「海外にいかなくても」と思います。N
- 憲法９条を守りたいです。　（豊中市・H 昭和 7 年生　T10 年生）
- 今や誰が何を言おうと、いかなる言葉も安部総理には通じない、次々と悪法を成立させ、怒り、焦るけど諦めてしまう。それが安部政権のねらいでしょうか。今まで歴代の自民党総裁がこの改憲に慎重であったのはやはり戦争への道を閉ざす思いが強かったからと思います。今の安部首相、その取り巻きは危険性を理解せず諌める人もいない。「戦争」への道は閉ざさなければ。カンパを平和運動の一助にしていただければ幸いです。　（F/T）
- 改憲は、海外で戦争するためではなく、北のミサイル、中国の無法から私たちの日常を守るためです。憲法守って国ほろぶに気づいて下さい。改憲を恐れるのはどこでしょう。永世中立国のスイスは軍をもって安心して生活できるのです。一般国民はピストルや包丁をもてず、せいぜい石ころぐらいです。他国に侵略されない（中国、北）ための憲法が必要だと思います。　（四日市市）

賛同してくださった皆さんからのメッセージ

今年もたくさんのメッセージをありがとうございました！

（お名前　アイウエオ順）

・平和憲法と同じ年であることがずっと誇りです！　赤沢美恵子
・憲法破壊、国政私物化の安倍内閣退陣まで何としてもがんばりましょう。　浅川保
・本年２月にも参加しました。年金生活ですが大切なことだからと思っています。　麻野他郎
・父がマルレの生き残りで、時々江田島の慰霊碑に寄ります。穴山順子
・みなさまの変わらぬご健闘に心より敬意を表します。ご一緒に歩めますようー！　阿部めぐみ
・嘘つき安倍政権には道徳教育を語る資格はない。　阿部良之
・戦争とは悪であり国家の行なう犯罪行為だ！　五十嵐政晴
・年１度 1,000 円は寄附したい。他の団体にも寄附しなければなりませんので、振込票のみご送付下さい。　池沢廣
・武力なしで生きよう、　池松綾子
・９条は平和の砦　希望の星　石津嘉昭
・共にガンバーロー　石橋肇・石橋咲子
・世界平和は核の放棄から始まる。　泉俊行
・９条は日本の誇りです。　磯田典之
・物・金に飛びつく蛙井戸の中。目玉あっても見えない。　板橋俊子
・カンパ遅くなりました。尊いお働きに感謝します。　市橋みはる
・2019 年 2 月安倍改憲成就？　平和ボケのまま死んでしまいたい。　伊藤忠志
・９条は命を守る最後の砦です。　伊藤道子
・安倍首相を本当発見器にかけよう　伊藤満
・ウソつき晋三に憲法語る資格なし　糸谷秋岳
・日本と世界の平和のために、日本の民主主義と自由の為に憲法を守りましょう。　井上聖文・由美子
・世界中に様々な人がおられます。その人たちが、よいことに正しいことに向かって、生きていけますように
・憲法九条は日本の誇り　井原俊博・井原美代子
・戦争は人殺しで最大の犯罪です　入江東樹
・当方行動できない年代になり、心より賛同しております。　入江スナエ
・アベ政治を私も許さない　岩﨑学・藤原彰子
・安倍さんこんなことをしている場合ですか？ちがうでしょ？ 岩戸弘
・９条は人類の理想です。　岩永昌子
・平和を誓った戦後の初心を守りぬこう！　岩本恵子
・分断が終わりますように　上山耕平・上山智子とその吾子
・戦争をしない国という名誉ある地位をなぜ捨てたいのですか？　鵜飼礼子・鵜飼真一郎
・地球を次世代に伝えるため、戦争放棄の憲法を変えてはなりません。　牛島忠夫
・９条に自衛隊を明記することは安保法制を追認すること　安部内閣、自民党に憲法改悪をさせてはならない。　柄夛貞介
・少ない年金生活で、１口で申し訳ありませんが、よろしく。H・H
・９条ぜったい手放すものか！　江口良二・江口はるみ
・自分たちの意見を自由に言える日本を守るのは、軍隊よりも憲法！大江宏
・青い空は青いままで子供らに伝えたい！　大越京子
・自衛隊は災害救援隊にしよう！　大澤敬
・今こそ、意思表示することの大切さを！　大島純子・大島浩司
・あえて見てこなかった戦後と、そろそろ真けんにむき合おう！！　大西和典
・自衛隊という名の軍隊はいらない！　大林トヨ子
・アベ改憲の発議を阻止しましょう。　岡崎晃
・九条を変えること即再び戦争すること、絶対にさせてはならない。岡田信也
・９条も 24 条も改悪ＮＯ！　岡原美知子
・戦争を憎み、平和を選ぶという作品に多く出演してきました。俳優の仕事は戦争を起こさない世の中を作ること。加藤剛さんのこの言葉に感動しました。　岡本剛
・９条堅守　小川育美
・みんなでがんばろう。小川和美・小川翔太
・今年も、あきらめない、あきらめない　小川桂子
・９条改正なら天皇制廃止を。　沖村博史
・戦争を知る老人達が、がんばらねばならない時代になったのを痛感しています。　奥下厚子
・九条こわせば日本もこわれる！　小河孝男
・平和憲法を守る人がタイホされ、コワス人が政治とる、こんな国は不用。　押部禎一
・世界の宝　平和憲法　ムザムザ捨てるなんて狂気の沙汰　小田切敬子
・１人の小さな声でも集まれば大きな声になります。　角谷香子
・広島、長崎では自民党がなぜ強いのでしょうか。戦い方を少し変えてみませんか。　笠井津伍
・護憲は私たちの義務です。　笠原久幸・美恵子・笠原整・裕子・松井千里・溝口浩史・藍
・９条守るその前に不断の努力の積み重ねあり　柏木直人・柏木小枝子
・一人ひとりのいのちを大事にするなら、戦争は NO ！武力も NO ！軍隊もＮＯ！　片岡佳美・吹野卓
・この侭では日本の民主主義は崩壊します。野党は小異を捨て大道につき国民の為安倍政権打倒に立ち上がるべきです。　勝信一
・たった一つの地球、ここでみんなと共に生きるために、平和と工夫を！　勝連夕子
・護憲の守り死守する覚悟で！　加藤義雄
・改憲は壊憲！　加藤淳子
・憲法の三大原則を壊す改憲は絶対許しません。　加藤浩道
・戦争は、人の心も自然も破壊してしまいます。絶対、反対です。加藤美智子・加藤裕二
・戦争は最大の人権侵害です。　香渡清則
・許すな改憲！９条は平和の証、安倍政権打倒！賀渕久志賀渕久志
・子や孫や教え子の未来に戦争は絶対ダメ！！　川本咲枝
・戦争を改憲に利用する総理はいらない！　川本正晴
・政権は道徳の教科を通して、全教科の中核となすことで子どもたちの内心の自由を奪おうとしている。９条改悪と表裏の関係にあり監視必要。　吉川徹忍
・戦争は普通のことではないし、普通のことだと思うことも、普通ではないと、私は思う。　木下久美子
・憲法九条堅持　九条の会山県
・平和に！この道弾圧いらない。　久世裕子
・９条は私たちの理想。困難でもめざしたい！　國貞守男
・憲法を、平和をつなぐかけはしに、24 条改悪反対！　ジェンダー平等の社会を！　国富泰子・国富建治
・どんな時も不断の努力を！　蔵並弘子
・命を育む　平和を紡ぐ　ひとりひとりの思いを繋げよう　黒田恵
・原爆なくそう　９条守ろう　小林裕・小林冨美子

・平和憲法が出来た時の喜びは、八十才を過ぎた今も鮮明に覚えています。　古賀竹子
・改憲阻止と反原発、沖縄問題解決は私のライフワークです。　古荘
・軍事力よりも力のあるものが憲法９条です。私たちの手に憲法をとりもどそう　小林義朗
・９条は宝　小山広明
・改憲反対！９条守れ、安保法制違憲！平和憲法にノーベル賞を！安倍政権は直ちに退陣！退陣！　小山尚吾・小山和美
・核抑止は不可能で財政的にダメムダです。　小山高澄・小山貴子
・生まれた所や皮膚や目の色でいったいこの僕の何がわかるというのだろう一青空よりーブルーハーツ　齊藤章子
・私も鎌倉．藤沢九条の会に所属しています。九条が守られ、戦争への道につながらないよう活動したいと思います。広島ファイト！　斎藤万寿子
・核　絶対廃止！　酒井弘行
・憲法９条の平和、個人の権利、うそがはびこる世の中から？？人々を目覚ませる貴活動に全面的支援を！
坂口晴一郎（トリプルあい）・坂口純子・健太郎・郁奈
・コスタリカに続こう！　坂田光永・章子
・戦後百年を実現しよう！　桜井邦彦
・戦争準備よりも平和への準備を！！　迫雅之・典子・葵・慧雅
・憲法第９条を守りましょう。　佐治麻理子
・応戦のための専守防衛ではなく、武力反対声明を！　佐藤節男
・核のない安心な世界を！　佐藤晶子
・安倍９条改憲ＮＯ！　佐藤純子
・私たちには〝九条〟を子どもたちに手渡す義務と責任がある。　佐藤暢子
・『戦争放棄』『戦力不保持』『交戦権認めず』の日本国憲法は単なる理想ではなく、現在最も現実的な理念であり実践すべき具体策だと信じます　皿海達哉
・９条守る、平和を守ることがいのちや地球を守る未来への約束！！　塩野たつ子
・真の力は軍事力でも経済力でもないことを思います。欺瞞やすりかえ、他者のせいにするようなやり方でゴリ押しすることに否を！　島田好国・島田偕子
・平和は武力では守れない　清水正人
・違憲の戦争法を憲法上正当化する今回の９条改憲を認めてはいけません。　清水雅彦
・日本国憲法の基本原理の一つ平和主義その理念に基づいた言動をしなければ恥ずかしい。　白井千也
・軍人として戦争経験者です。２度と戦争してはなりません　神宮寺敬
・悪政が続いているのは、残念ながら、選挙民の質なんでしょうかねえ…　でも、あきらめてはいけない！　新藤知樹
・手放さない、この宝物を。菅茂樹・みゆき・こゆき・惇
・戦場をつくらないで、天国をつくろう。　杉原直幸
・安倍政権にも翳りが見られます。９条を守る声を集め、人権・平和を最優先とする政府をつくりましょう。　鈴木聖幸
・核兵器廃絶そして全原発廃炉放射能はいやだ　関千枝子
・軍隊は命も財産も守らない。　瀬尾徹志・瀬尾知佐子
・いのちを大切にする社会を。　反町潤平
・９条があるからこそこの国を誇りに思います。まがりなり
・９条がある間はこの国を愛します。　髙岡純子
・９条は世界の平和の生命の源です。　髙嶋道
・働き方改革案（＝過労死促進法案）に反対します。　高田由美
・平和へのメッセージは、被爆地ヒロシマから、ささやかながらエールを送ります。　髙木伸子・髙木純吾
・核禁止条約への参加，伊方原発の廃止，米軍基地の撤去も願います！！　高島武雄
・あちこちで自然災害が気になります。どうかこの上人災が起きないようにと願います。　髙橋成世
・初孫が生まれました。軍隊、徴兵制絶対ダメ！！　高橋知可子
・I wish for world peace ！　世界平和は９条から　巽裕子・巽良輔
・九条いのち！！　田中義行・鳥越ゆり子
・広島に原爆が落とされたニュースは小学６年生の時疎開先の山形県庄内で聞きました。子供盛りのいろんなつらいことも、これが当り前と思って（思わされて）日々過ごしていました。今、政府の動きに敏感でなければと思います。署名もこの献金もその一つです。　谷佐代子
・殺されてはならぬ　殺してはならぬ　殺させてはならぬ　ブッダの言葉です。　旦保立子・旦保淳子
・９条改憲　NO ！　近本江吏子
・8月や、6日9日15日、子孫末代に口伝を。安倍黒だ。　長曾我部靖國
・９条を守ることは命を守るということ。　辻村玲子
・こんどは私たち市民が戦争を止める。　坪野弘幸
・改憲 No ！皆で守ろう　憲法を絶対に変えないで！　出口紀代子
・安倍９条改憲ＮＯ！に賛同致します。　寺嶌栄子
・憲法改悪絶対反対　傳道肇
・最近のぼくらの冊子をゆうめーるで送ります。よかったら手造りですが何部でも可能で、引用もご自由で望みます。　銅銀正美
・ストップ改憲！　道津弘二
・安倍改憲は亡国への道　戦争への近道　徳島百人一首の会
・命　どう　宝　渡口差知子
・修学旅行生に被爆体験を話しています。　豊永恵三郎
・９条に自衛隊が明記されれば集団的自衛権 OK の軍事大国になります。権力者にはよくても庶民には何もよいことはありません。どんちゃん
・憲法９条は世界の宝だよ、アベちゃん！　中野護
・主権者から縛られるべき者たちがのさばるアベ政治にエンドマークを！　中村幸司・訓子・周平・有作
・自由、平等、博愛、平和。　中村雅之・中村松美
・アベから日本を取り戻そう！！　永山良樹・京子
・憲政史上最悪の安倍自公政権に鉄槌を！！　成田強
・先の戦争の反省に立ってできた優れた九条を、反省しなかった為政者の孫が率いる政治が戦後のドイツとの違いですね。決して許してはいけません。　難波幸矢
・憲法９条を世界に！　西川恵子
・日本の右傾化を STOP しよう！反戦・反核でがんばろう！　西川啓子・根本博
・違憲の安保法を廃棄すべし　西村不可止
・憲法９条は世界の宝　西矢芳子
・明確な自分の意見を持った個人をいっぱい創り出すことが大切だと思います。　仁田坂喬一・仁田坂百合恵
・戦争をしない特別な国になろう。　野澤信一
・戦争は悲劇しかもたらさない。　野尻賢二
・武力で平和はつくれない！　野津功・野津睦子
・戦争も核兵器も絶対悪です。それらは人間がつくり出したものだから、人間の理性と力で防げます。　野田隆稔
・安倍退陣！９条守れ！　野村晋一
・９条は世界の平和の生命の源です。　髙嶋道

・平和は必ず来る！共にがんばりましょう　橋本あき・希和
・戦争の悲しみを知らない人達に政治を任せたくない。　長谷川美惠
・日本の恥　安倍はいらない！　畑野定子・塩飽忠一
・憲法は１言１句変えてはいけません　畑真理子
・永久平和への列車は広島から世界へ発進！　花ノ木清子
・憲法９条を変えて戦争する国になることはイヤです　林紀子
・改憲反対の輪が広がるよう祈ります。　原郁夫
・若い世代の方にもっと改憲について考えてほしいです。自分たちの問題として・・・　原邦子
・100 万円を森友に出したことは誰れもが信じている。よって金品の関わりがあったのだから、即時辞職をしなさい。　原田健
・アメリカも賛加して考案した世界でも誇れる憲法です。九条守りましょう。　原田美都里
・平和をつくりだす人は幸いである。　人見勝
・平和が好き。一人一人がのびのびと暮らせる世界を！　平田京子
・市民の力が今こそ試されています。ご活動に感謝。目標達成を！　福井
・如何に難しくとも、問題解決には、話し合うしか道はない、武力ではなく。　福岡行子
・コスタリカに学び、教育、医療、福祉充実の、高幸福度国家建設へ。　藤井慶輝
・安倍政権の暴走９条改憲 NO ！　藤岡裕士
・改憲反対・核を持たない・戦争をしない。・世界の人々と仲良く。　藤川博正・藤川布子
・子どもを守れ　家族を守れ　人の命を守れ　藤川英子
・９条と共に生きる　藤澤宜史
・憲法９条改正に反対し、3000 万人署名活動に専念しております。　藤嶋英毅
・生まれ来る者に平和を　藤野美津子
・北東アジアの平和のためにも９条の精神が必要です。古屋敷一葉
・戦後、中学生で『あたらしい憲法のはなし』を学びました。９条改憲絶対反対です。　堀江和夫
・行動しなければ、平和は守れない。　堀尾昭子・堀尾貞治
・原子力発電も全部廃止を！核廃棄物の再利用で、劣化ウラン弾を作る等のかくれたたくらみは、どうなっているのですか。絶対に有ってはいけない。　前畑ゆかり・前畑章子・前畑京子
・改憲は許してはなりません　前原成正
・改憲絶対反対、９条は人類の宝　増井幸子
・後悔しないために改憲阻止しよう　益永陽子
・子や孫を戦場に送らない　松井久治
・子どもたちに残したい。武器ではなく平和を！　松浦真・松浦弘子
・９条改憲ＮＯ！安倍ＮＯ！の方がわかりやすい、安倍９条ではないので　松尾保代
・ＩＭＡＧＩＮ　原発ゼロで戦争のない世界を憲法９条をもつ国を　松藤富隆・松藤比沙子
・沈黙は戦争を呼ぶ　松本正次
・私は９条を改悪して自衛隊を明記することには絶対に反対です。生かしましょう９条！　許すな改悪！　松本聡
・戦争の解決に武力を使わないこんな素晴らしい憲法を、今こそ、世界中の人々に伝えましょう。　松本文化
・私は、九条が好き！！（平和憲法）　真鍋裕子
・軍事費の増大を福祉にまわせ！　馬庭京子
・何処まで続くのか軍拡のながれ、戦争の恐怖と惨禍を知る者です。平和憲法９条の改憲に断固反対します　三浦昭二
・73 年間、平和をありがとう９条　三島弘敬
・世界中から戦争をなくそう。　溝口とく子・杉本泰子
・意見広告に賛同します。ぜひ、掲載してください。運動がひろまりますことを！　溝渕有子
・９条に自衛隊明記なぞ、とんでもありません。オリンピックの年に可決したい、―許せません　水戸洋子
・身の丈と体力にあわせて、年よりも生きてゆきます。三原憲法朗読会
・平和のために軍事力を高めるなどは絶対反対！憲法九条を世界に広めて、戦争をしない平和な国を広げたい。　ミミ
・安倍９条改憲ＮＯ！平和憲法を守るぞ！　宮岡照彦
・世界遺産！憲法９条　三宅辰彦・三宅愛子
・いくら防衛のためであれ、陸海空軍その他の戦力を保持しないのは私らの両親の遺言です。　三芳英教
・8･6 新聞意見広告を期待します。　三輪幸雄・春江
・平和はかちとるもの　お互いに一歩すすみましょう。　三輪光明・三輪弘美
・不戦・恒久平和を願う九条を遺志として継いでいきたい。　向井すず子
・世界に誇れる憲法９条を絶対に守りぬかなくてはなりません！村田和代
・九条は全世界の理想として訴え続けなければいけないと思います。　毛利勇二
・武器ではなく平和を輸出しましょう。　元永幸雄
・広島の皆様　ご無事でいらっしゃる事を願って居ります。いつもお世話になります。　森田留美
・命や人権を軽んじる指導者や政治家に世界を任すことはできない！　森雄二
・憲法に、何も足さない何も引かない。8.6ダイイン参加します。　諸橋泰樹
・９条を活かす政治を一　八木和美
・高齢で少しばかりの協力しか出来ませんが・・・。賛同します。　梁島ケイ子
・憲法９条は平和の象徴　柳瀬文恵
・子供たちのために未来のために安倍９条会見ＮＯ！　山岸泰男
・今年もありがとうございます。毎年、原点に立ち返る日な気がします。　柳本純枝
・軍事力で平和は守れない！外国の脅威を煽り、戦争も辞さずという政治家は、自ら戦争には絶対行かない！！　山口広
・安倍首相は日本国憲法に法って全ての行動を行って下さい。　山下紀子
・九条に自衛隊のことが記入されませんように、がんばります。　山下昭子
・独自の平和外交政策を持てない我国の首相、悲しい。美しい日本のために、もっと平和外交を　山本暁美
・戦争をしない世界へ貢献する日本の９条　山本俊彦・山本尚子
・核はいらない。爆弾はもちろん、発電も、カサも。　山本泰生・山本絹恵
・憲法を守らない安倍政権に改憲の資格ナシ！　横原由紀夫
・子や孫が核のない世界で生命を全うできることを願います。　横山篤夫・横山芳子
・アベ政治を終りにしよう、九条実現！　吉川邦良・吉川清子
・永遠の９　吉永愛子・大森文隆
・安倍改憲は自衛隊からブレーキをはずす愚策のきわみ　吉野典子
・九条はわたしの宝　吉原美玲子・吉原克弥
・ちひろが挿絵を描いた「わたしがちいさかったときに」を読んでくださいね　Y.M
・９条を守り、核禁条約の署名を！　若尾典子
・核禁条約の署名をしよう！　若尾祐司
・すべての核兵器と核発電の廃絶を！　若松丈太郎
・なんてったって命が１番、命をまもろう、９条まもろう！　渡辺眞知子

書評

『戦後ヒロシマの記録と記憶――小倉馨の R・ユンク宛書簡』

若尾祐司・小倉桂子編　名古屋大学出版会上下 1918 年 7 月

岡本珠代（第九条の会ヒロシマ世話人）

本書刊行まで

本書は、広島を中心に通訳・国際交流の働き手として活躍した小倉馨さん (1885-1979) が、オーストリア人ジャーナリスト・反核活動家のロベルト・ユンク (1913-1994) あてに 1957 年 5 月末から 59 年 10 月半ばに出した英文による 200 通以上の書簡を訳出したものが中心となっている。書簡の存在は小倉さんの死後遺品を整理していた妻が発見した。

小倉さんは、1957 年 5 月初めの 2 週間広島に滞在したユンクの通訳をつとめ、ユンクの求めに応じまた自主的に資料を収集・英訳して送る役目を担った。日本―ヨーロッパ間の郵送は 1 週間以上かかった時代である。それでも著書の刊行を準備するユンクにとっては小倉さんは海を越えたまたとない研究・調査助手だったに違いない。

資料収集に際して小倉さんは数多くの人々にインタビューし、諸種の新聞（特に中国新聞）・雑誌などにあたった。この時期前後に広島市長だった浜井信三の回顧録やインタビューは小倉さんの当初の資料として大いに役立った。

浜井市政あれこれ

浜井氏は市長時代に連合国軍最高司令官総司令部 (GHQ/SCAP) の政策としばしば衝突した。GHQ の多くの命令は口頭で発せられた。1948 年 49 年は労働運動が激しく展開し、軍政部は公安条例の制定を要求したが、浜井市長は集会とデモを制限することは民主主義の原理に反するとして否定的だった。結局妥協案を出したが共産主義者と見なされてしまった。また軍政部は共産党員の市職員を解雇するように要求したり、闇米の禁止も命令した。浜井さんは 2 期（1947-55）つとめたあと落選し、返り咲いた（1959-67）。1950 年には平和記念公園を作り、1966 年には原爆ドームの永久保存運動を起こし、反原爆を訴え続けた。70 年後の現在の日本で、自治体による核廃棄物拒否条例が広がっていると聞く。これが結局は原発・核兵器廃絶に有効な手立てになるかもしれない。浜井氏の姿勢に学びたい。

小倉さんは蟄居中の浜井さんにインタビューして、彼の返り咲きを応援したいとユンクに書いている。

5.3 憲法を守る？　変える？　市民投票　帽子の岡本珠代さん
写真　澤田正さん

被爆後 12 年前後の広島

小倉さんの書簡が映し出すのは、とくに被爆後 12 年前後の広島の状況と人々の暮らしぶりである。その中でも現在ではほとんど人々の記憶にとどまっていないと思われるいくつかの事象が浮かび上がる。1957~59 年といえば、原爆症で死亡する人が後を絶たないのに原爆症と認められず、かえって報道管制が敷かれ、ABCC(原爆障害調査委員会) は診察しても治療しない方針を貫いていた。バラックに住む人々の暮らしは困窮し、犯罪に走る件数も多かった。

二人の青年

それらの犯罪の中でも小倉さんが M 一夫事件と呼ぶ一件では、1950 年に M 青年が毒飲料で 4 名に危害を加え 1 名が死亡した。毒殺されたのは闇商人で、M は無期となったが、広島刑務所にいる M と交流した小倉さんは、犯行のいきさつや原爆で痛めつけられた M の人となり、美術や文筆に豊かな才能を発揮することに感嘆し、ユンクに報告する。M 青年はのちに刑務所で点字翻訳会を始めたという。

対照的に、犯罪とは関係なく被爆後はドーム下のバラックに住んでいた河本一郎という青年が子どもたちの世話をしていた様子も描かれる。河本青年は 1958 年 5 月に完成した原爆の子の像を実現させた子どもたちのグループを指導し、大人が仕切ろうとする除幕式をできるだけ子ども中心にしようと努力した。彼は執筆はあまり得意でないようだったが、自分の活動について長い原稿を書き、小倉さんを通してユンクに送った。

ヤクザ抗争と遊郭

戦後広島の世相としてヤクザ抗争が目立つ。ユンクの関心に導かれた小倉さんもヤクザの実態や遊郭の存在、売春の実態を調査する。遊郭関係者へのインタビューを行い、広島の遊郭が 1958 年に売春防止法ができるまで盛んにおこなわれていることがわかる。

1945 年の 8 月 18 日には占領軍を対象にした性的慰安施設の設置を求める内務省局長の通牒が各警察本部長あてに出されたという。政府が率先して慰安施設を設けることに積極的だったことがこの一件からもわかる。その年の終わりまでに SCAP から禁止令が出て公娼制度はなくなったが、自由営業は続き売春婦が増え、1958 年売春防止法の完全施行の後も痕跡が続いていたようだ。

放射能の影響への見解の相違

現在の核問題の重要点の一つは放射能の影響をどう評価するかだと思われるが、今では常識になりつつある放射能の内部被曝は 1957 年当時はまだ認められなかった。（内部被曝が真剣に論じられるようになったのは 2011 年のフクシマ事故以後のことである。）

小倉さんは頻繁に面会した広島逓信病院の蜂谷道彦院長（『ヒロシマ日記』1955 年）には人物的には共感しつつも、被爆の後障害を認めないことについていささか疑問を抱く。蜂谷医師の考えは ABCC の見解と同じなのだった。

小倉さんは、他方で被爆の後障害を重視する原田東岷医師や於保（おほ）源作医師ともインタビューを行った。於保医師はそこで残留（二次）放射能の影響について『日本医事新報』にすでに発表したと述べている。それは 1956 年に発表された「原爆被爆者における悪性新生物死亡の統計的研究」だった。

原子力の平和利用？

1958 年 9 月ジュネーブで原子力平和利用国際会議が開かれ、ユンクが出席したが、彼への書簡の中で日小倉さんは「核エネルギーは今や顕著な進歩を達成しつつある一方で、広島の我々は恐怖と死という形で同じ産物につねに脅かされている」と書いた。核兵器は悪だが核実験や原発も絶対悪と捉える段階までにはまだ至っていなかったと思われる。

小倉さんは書簡の中でユンクの考えを知りたがる。米国は平和利用のために核実験を行う権利を主張しているが、マーシャル諸島では核被害者が出ている。まずはユンクのような著名なジャーナリストがイニシャチブをとって日本から調査チームを派遣するという提案があるが、どう思うか。これに対するユンクの反応は不明だが、残りは歴史が語っている。

『中央公論』1958 年 8 月号の論説「ヒロシマ−その後 13 年」

小倉さんが資料収集にあたって最も注目したものの一つというこの論説記事は、この被爆後 13 年間にいかに被爆者が放置されてきたか、社会的に差別されてきたか、を指摘する。ユンクなどの調査活動を踏まえた直接被爆者からの聞き取りが土台になっている。

於保源作が私費で行った調査などで被爆者のがん死亡率が一般の 3 倍にのぼるという結果がでた。やっと 1957 年施行された原爆医療法で全国 29 万に達する被爆者に無料で治療の道が開かれたが、被爆者の体系的研究や資料収集に政府支援はない。原爆医療法は治療のみで社会保障は行わない。この論説はそれゆえ被爆者に政府からの社会保障をと強く訴えている。

一方 1956 年に発足した広島原爆障害研究会は ABCC に比べると貧弱な予算の中で残留放射線の線量推定を始めた。わずかに光が当てられ始めたというべきか。

ユンクの反核活動

ユンクと小倉さんの書簡でのやりとりは 1961 年に『灰燼の子どもたち』刊行で結実した。ユンク自身の広い関心が小倉さんの調査を方向付けたが、一方ユンクの反核思想は揺るぎないもので、彼はその後のヨーロッパにおける反核運動の背骨になった。友人のドイツ人思想家ギュンター・アンデルス（原爆投下したエノラ・ゲイに対して投下命令を下しのちに精神を病み 1978 年にがんのため死亡したクロード・イーザリー機長を支援）との交流も本書で語られる。その後ユンクとアンデルスは 1960 年代に組織されたヨーロッパの反核ネットワークの中核をなした。

小倉馨さんのプロフィール

小倉馨さんは米国シアトルに生まれ初等教育を受けたのち日本に帰り、広島の中学校を出て山口の高商を終え、1942 年徴兵され、4 年にわたって南方をさまよったのち、1946 年広島に戻り、1949 年からは SCAP 民間情報教育局図書館に勤務、1953 年から 56 年までは東京麻布の文化交流団体国際文化会館で働いたという。（評者も 1962~68 年の通算 6 年間同じ団体に勤務したので思わぬ接点に驚いた。）3 年後結核を病んだ小倉さんは広島に戻り、ユンクとの仕事など文化交流の橋渡し役をつとめ、1960 年からは広島市広報課渉外部長の職にあった。

それにしてもユンクとの仕事のように膨大な資料の探索・読み込み、英和・和英の翻訳作業は並の語学力では不可能で、小倉さんは学校教育以外で独自に相当の研鑽を積んだものと思われる。またユンクとの仕事のための資料の蒐集・整理も丁寧にこまめに行っていた。

また彼の書くものからは、彼の卓越した語学的才能ばかりでなく、他者（とくに子ども）へのまなざしの優しさ、正直で誠実な姿勢が見て取れる。何より米国生まれの仏教徒の彼が、軍隊時代や戦後の混乱期の日本にあっても思想的に平衡感覚を保ち続け公正な姿勢を貫いたことは驚きに値する。彼の誠実な人柄については、のちに妻となり、また HIP（平和のためのヒロシマ通訳者グループ）を立ち上げた小倉（旧姓山根）桂子さん自身が本書の巻末で証言している。

本書刊行にあたって

最後に、この膨大な英文資料の整理・索引つき編集・解説にあたった小倉桂子さんと若尾祐司（名古屋大学名誉教授）さんに心からの敬意を表したい。若尾さんはお連れ合いの若尾典子（龍谷大学名誉教授）さんともどもかねてより第九条の会ヒロシマの賛同呼びかけ人になってくださっている。本書は彼の肝いりからか名古屋大学出版会から刊行されている。

本書が被爆後の広島について調査・研究する際の不可欠の資料であることから、全国の図書館に備えられ、研究者だけでなく歴史から学びたい一般の人にも読まれることを大いに期待する。

今年の 8.6　8.9　報告

8月6日　グラウンドゼロのつどい（原爆ドーム前）

8月6日　ダイ・イン

8月6日広島デモ　中電本社前に向けて原発含む核の廃絶！

8月9日ナガサキ爆心地公園　8.6ヒロシマ平和へのつどいの仲間が毎年参加
写真提供　新田秀樹さんほかピースサイクルの仲間たち

四コママンガ　八方美人シリーズ

毎週土日にこのマンガを入れたチラシを作り3000万人署名を集めている女性たちがいる。彼女たちは既に三千筆を集めたという。また、とにかく街に出かけ人もいる。「九条が変わったら男も女も戦争に行かされる」と声をかけると自分のこととして考えて書いてくれるそうだ。彼女は既に、1人で五千筆を集めたというからスゴイ！　まず九月三日、ヒロシマ総がかり三の日行動（平日は17時半）での3000万人署名行動に、あなたの言葉で声をかけてみませんか？

始まりました！@別姓訴訟広島　これから、よろしくお願いします！

カラフルな横断幕を掲げて入廷
「いろんな生き方あっていい」

7月24日、広島地裁での第2回別姓訴訟の初回でした。裁判前の一週間、裁判に遅刻する夢を見たり、耳鳴りがしたり、ドキドキして過ごしました。入廷パフォーマンスを皆さんに呼びかけ、テレビ2社と私たちのHP用ビデオ撮影の人が撮影してくれることになり。たくさんの方が平日の酷暑！の中来てくださっていて感激でした。いい天気で「いろんな生き方あっていい」というカラフルなバナーと、支える会のロゴ入りパネルを掲げて元気に入しました。

映画が好きで法廷ものもよく見ます。日本や外国の裁判所での原告被告のやりとり、裁判官の様子など面白いとみてきましたが･･･　本物の裁判所も、銀幕やTV画面の中のような、ちょっと特別な空間で、そこに原告として座れたのがちょっと嬉しくて、傍聴席にいっぱい知った顔があり、それだけで随分落ち着くことができました。聞いてもらえるように陳述したいと思ってマイクがあったのにかなり大きな声で陳述してしまいましたがどんなだったでしょうか。

原告の意見陳述のあと、野口弁護士の弁論要旨の陳述、答弁書にあることへの確認はサクサクととても手際よく進み、次回の期日11月20日16:00からと決めるまで30分。こんなものなんですね。あっという間のヒヨコ原告の初期日でした。

報告集会

そのあと記者会見と野口弁護士の裁判解説をメインとする集会。裁判解説でちょっと意味が分かりました(^_^;。終わったのが19時30分。最後までご参加いただいた方、たいへんお疲れさまでした。東京から、別姓訴訟を支える会の福沢恵子さん、mネットの坂本洋子さんも来てくださり、集会でご挨拶もいただきました。ありがとうございました。

遠くから応援のエールを送ってくださった皆さん、エール、しっかり届いています(^.^)！。いただいたエールを次の立川（8月23日）に送ります。　恩地いづみ（広島原告）

活動報告（第九条の会ヒロシマほか　ネットワーク、実行委員会含む）

6月 6日（水）　日本軍「慰安婦」問題解決・ひろしまネットワーク水曜街宣　12時～　本通り前
10日（日）　安倍政権退陣　3000万人署名を成功させよう三原行動　三原市市民福祉会館　14時～15時半
満田夏花講演会「日本のエネルギー政策」 アステールプラザ　14時
14日（木）　第6回9条世界宗教者会議公開講座　国際会議場　ダリア　19時～21時
16日（土）　環瀬戸内海会議総会「生物多様性の変遷を見つめて」 ビューポートくれ13時　～17日
23日（土）　ヒロシマと沖縄をむすぶつどい　広島ＹＭＣＡ　14時～
25日（月）　「日米地位協定」女たちの学習会　広島国際会議場３Ｆ研修室３　18時半～
27日（水）　中国電力株主総会10時（脱原発へ！中国電力株主行動の会）＆本社前行動（上関ネット）9時～13時
28日（木）　第九条の会ヒロシマ世話人会　ヘルプハガキ発送
30日（土）　別姓カフェ　ハチドリ舎　14時～
韓国原爆被害者救援の会　韓国人慰霊碑の歴史　高橋優子さん　14時半　平和ビル（大手町）
7月 1日(日)　岩国集会（岩国市役所前広場）14時
3日（火）　第九条の会ヒロシマ世話人会　14時～　広島国際会議場３Ｆ研修室
日本軍「慰安婦」問題解決・ひろしまネットワーク水曜街宣　12時～　本通り前
ヒロシマ総がかり3の日行動　12時～13時　八丁堀　本通り前ほか
10日（火）　第九条の会ヒロシマ世話人会　14時～　広島国際会議場３Ｆ研修室
14日（土）　日米地位協定学習会　岩国基地の拡張強化を許さない！広島県住民の会　広島弁護士会館　14時～
17日（火）　第九条の会ヒロシマ世話人会　14時～　広島国際会議場３Ｆ研修室
18日（水）　上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動　12時～13時
20日（金）　岩国爆音訴訟控訴審　第6回口頭弁論　13時半　広島高裁
21日（土）　第九条の会ヒロシマ名簿整理　13時～17時　ゆいぽーと
22日（日）　第九条の会ヒロシマ名簿整理　15時～　広島国際会議場３Ｆ研修室
24日（火）　第二次別姓訴訟（広島）広島地裁15時（14時半地裁前集合）
30日（火）呉教科書裁判　広島地裁　13時　　報告集会　（広島弁護士会館）
8月 5日（日）　８・６ヒロシマ平和への集い（市民交流プラザ）14:00～17:30講師：金鐘哲（キムジョンチョル）
6日（月）　8.6新聞意見広告＆市民による平和宣言配布　7時～　原爆ドーム前ーダイインー デモー中電前座り込み行動
8日（水）　8.6新聞意見広告発送作業　13時～　広島市まちづくり市民交流プラザ
10日（金）　8.14メモリアル・デー広島集会　金学順さんから始まった＃MeToo運動　ゆいぽーと14時
17日（金）　第九条の会ヒロシマ世話人会　14時～　広島国際会議場３Ｆ研修室
22日（水）　上関原発止めよう！広島ネットワーク中電前行動　12時～13時
25日（土）　広島総がかり全県意見交換会　　広島弁護士会館　午後1時～3時
9月 5日（水）　日本軍「慰安婦」問題解決・ひろしまネットワーク水曜街宣　12時～　本通り前

お知らせ

◆岩国米軍機を飛ばすな！　国の交付金を受け取るな！
ヒロシマ女たちの行動（仮）

9月18日（火）9時半～10時半　広島県議会 議会棟前
（大雨、台風の場合は9月20日同時間）
9月議会開会日にヒロシマの女たちが横断幕を掲げて、
県知事、県議会議員、県職員、街行く人々に訴えます。
主催：平和を求めるヒロシマ女たち実行委員会
連絡先：080-1913-3557（佐藤）090-4692-6667（冨樫）
070-5052-6580（藤井）

◆個個からカフェー不安なく違っていられる社会への一歩
ー夫婦別姓？　よその国ではどうなっている？ー

9月28日（金）19時～　ハチドリ舎
スピーカー　オーストラリア　豊田悦子さん
イギリス　貫名緑さん
韓国　安くんじゅさん
コメンテイター　井上嘉仁さん（広島大学教員）
参加費：800円（ワンドリンク付）
主催：別姓訴訟応援団
連絡先　onji.i@nifty.com、0822852105(留守電/FAX)

◆憲法の理想を実現する教育　前川喜平講演会
9月30日（日）10時～12時　広島国際会議場ヒマワリ
講師：前川喜平さん（現代教育行政研究会代表・元文部科学省事務次官）
参加費：無料（保育希望は要連絡8月31日まで）
主催：広島県保険医協会
連絡先：TE｜082-262-5424　FAX:082-262-5427

◆辺野古新基地建設反対！
瀬戸内からの埋め立て土砂投入を許さない
10月1日（月）18時半～20時半　広島市民交流プラザ6Fマルチメディア
講師：湯浅一郎さん（環瀬戸内海会議顧問、NPO法人ピースデポ代表）
主催：沖縄・辺野古に新基地を作らせない広島実行委員会
連絡先：090‐3373‐5083（新田）

◆「オレの心は負けてない」上映会
10月6日(土)14:00～16:30
広島市男女共同参画推進センター(ゆいぽーと)研修室4
映画：在日朝鮮人「慰安婦」宋神道のたたかい(95分)2007年
制作:在日の慰安婦裁判を支える会
資料代:：500円(学生無料)
主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先：090-3632-1410(土井)

◆ 呉教科書裁判
10 月 30 日 (火)13：10　広島地方裁判所　30 分前交通切符配布室
報告集会：裁判終了後　広島弁護士会館
主催：教科書ネット・呉
連絡先：是恒（080-6335-5848）中室（090-6404-1008）
岸（090-6830-6257）

◆ 第 2 次別姓訴訟第 2 回公判
11 月 20 日 (火)　広島地裁　16：00 ～
→　裁判後、報告集会　広島弁護士会館
主催：別姓訴訟応援団

2つの署名にご協力を！　**返信用封筒をお使いください**

① 3000万人署名 ← 改憲発議が今年中か来年初め？！

安倍首相はこの秋、自民党総裁選 3 選を果たし改憲論議を高めて改憲発議をと目論んでいる。発議は最速で今年中が、来年の通常国会早々。日程的に無理だという人もいるが両院で 3 分の 2 を持っている今を逃すまいという思いは強い。公明党は慎重云々を言っていつもコロリと変わる姿を見てきた。発議すれば国民投票まで 60 日～ 180 日。地方統一選と天皇代替わりをはさんで参院選前か後か。昨年の衆院選を思い出せば安倍は発議も国民投票も強行する可能性大。それに対抗するために 3000 万人署名で有権者（投票数）の半数を集め、国民投票は無理だと思わせるために！

ご協力ください！

② 辺野古埋め立て土砂搬出計画の撤回を求める署名

「故郷の土を戦争に使ってほしくない」「故郷の土で辺野古の美しい海を埋め立てないでほしい」との思いから、辺野古新基地建設の土砂投入の中止、本土からの土砂搬出計画の撤回を求める署名
辺野古新基地計画に命を削って反対してきた翁長知事の思いと共に署名を集めて国会衆参両院に届けましょう。

◆岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会
吉和・安芸太田町地域のフィールドワーク＆ミニ学習会
10 月 8 日 (月・休)　集合時間：　JR 廿日市駅北口　9時
→廿日市市立吉和小学校・中学校前 10時
フィールドワーク：吉和＆安芸太田　要：予約(9月30日まで)
学習会：13時30分～　報正寺
(山県郡安芸太田町上筒賀261-1　0826-32-2637)
基調報告：田村順玄さん (リム・ピース共同代表・岩国市議)
報告：　安芸太田からの城山大賢さん、大江厚子さん
主催者：岩国基地の拡張・強化に反対する広島県住民の会
連絡先：０829－31－3356(事務局)

◆九条の会・はつかいち 13周年総会・記念講演会
10 月 13 日 (土)　14：00 ～ 16：30（総会 13：30 ～）
廿日市商工保健会館 1 階 交流プラザホール
廿日市市本町 5－1（宮島線 廿日市市役所駅前から 徒歩 5 分）
講師：高田　健さん（「九条の会」事務局、
「許すな！憲法改悪・市民連絡会」事務局長）
参加費：800 円（学生・障がい者 無料）　託児・手話通訳要問合せ
主　催：九条の会・はつかいち　連絡先：090-3373－5083(新田)

◆ 日本軍「慰安婦」問題解決のための水曜街頭行動
日時：原則第 1 水曜日 12 時～ 13 時　9/5　10/3　11/7　12/5
場所：本通り電停前（青山側）　チラシ配布・リレートーク
主催：日本軍「慰安婦」問題解決ひろしまネットワーク
連絡先：090-3632-1410（土井）

◆ 上関原発止めよう！毎月の中国電力本社前行動
9 月 19 日、10 月 17 日　11 月 21 日　12 月 19 日
（原則第 3 水曜）12 時～ 13 時　中国電力本店前
チラシ配布・リレートーク　スタンディング　部分参加も歓迎。
主催：上関原発止めよう！広島ネットワーク
連絡先：090-6835－8391（渡田）

事務局から

18 年会費･カンパのお願い致しま～す (._.)

・8.6 新聞意見広告、18 年会費・カンパを送ってくださた皆さま、有難うございました。お陰で今年も 8.6 新聞意見広告の掲載ができました。ご支援に心より感謝申し上げます。

・封筒のタックシールに皆さまの入金状況を記載しております。18 年会費がまだの方は引続きご支援くださいますよう、お願い致します。もし間違いがあれば遠慮なくご連絡ください。

後記

・2 回の新聞意見広告　取り組んでよかった。やっぱり署名を入れて、見るだけではなくて参加型にしたのがよかったのかな。

・朝日歌壇にあった「「翁長さんがんばったね」と文太さん基地なき島へ想ひのこして」今度は私たちが頑張る番。

・なぜ安倍の支持が落ちないの？みんな今を暮らせているし安倍に似てるから。都合の悪いことにふたをする。ドキッ！でも許さん！

・この夏、暑かったですね。広島は洪水・土砂災害で住宅も農業も漁業も大変な被害です。イージス・アショアなど高額で平和を遠ざけるものよりも、人々の日常のくらしが優先じゃないの。